

# 津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

図面番号	図面名称	図面番号	
A 00	表紙、目次	21	改修後 平面詳細図
01	特記仕様書-1	22	改修 基礎伏図、梁伏図、軸組図
02	特記仕様書-2	23	改修 鉄骨詳細図
03	特記仕様書-3	24	既存 基礎詳細図、基礎梁伏図
04	特記仕様書-4	25	既存 R階梁伏図
05	特記仕様書-5	26	既存 建具表
06	位置図、配置図		
07	仮設計画図（参考）	E 01	改修前 天井取付機器平面図
08	仕上表	02	改修後 天井取付機器平面図
09	改修前 平面図	03	改修前 壁面機器平面図
10	改修後 平面図	04	改修後 壁面機器平面図
11	改修前 屋根伏図	05	屋上平面図
12	改修後 屋根伏図		
13	解体前・改修後 立面図、断面図	M 01	機械設備 撤去 機器表 凡例・消火系統図
14	改修前 天井伏図	02	空調設備 撤去 屋根伏図
15	改修後 天井伏図	03	空調換気設備 撤去 平面図
16	改修前 矩計図	04	給排水衛生設備 撤去 平面図 平面詳細図
17	改修後 矩計図、基礎詳細図	05	給排水衛生設備 改修後 平面図
18	改修前 平詳細面図-1		
19	改修前 平詳細面図-2、展開図-1		
20	改修前 展開図-2		



③

防水改修工事

1

アスファルト防水

(3.3.3)  
(表3.3.3)～  
(表3.3.10)

改質アスファルトルーフィングシート

種類・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )  
厚さ・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )  
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート  
種類・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )  
厚さ・改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による・( )

(3.3.2)

断熱工法の断熱材 (P1B1, P2A1, P0D1, M3D1, M4D1)  
材質・( )  
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種b A (スキンあり)  
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号  
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種2号  
厚さ・( )  
ルーフトレンドリ回り及び立上がり部周辺断熱材の張りじまい位置・図示(図面番号: )

(3.3.3)(2)(4)  
(3.3.3)(3)

脱気装置 (M3D, P0D, P0D1, M3D1, M4D1)  
・設ける(設置数量・図示(図面番号: ), 材質( ))  
・設けない  
・仕上塗料 種類( ) 使用量( )  
保護コンクリートの厚さ 全て仕上げ・水下80mm以上・( )  
床タイル張り・水下60mm以上・( )  
全て仕上げの場合のコンクリートの平たんさ・a種・b種・c種  
保護層・設ける・設けない  
屋上排水溝の適用・適用する  
立上り保護・乾式保護材( )  
・れんが(材質・JIS R1250)

(3.3.5)  
(表8.1.5)

改質アスファルトシート  
種類・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( )  
厚さ・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( )  
粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート  
種類・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( )  
厚さ・改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による・( )  
断熱工法の断熱材 (M3AS1, M4AS1, P0AS1)  
材質、厚さ( )  
図示・( )

(3.4.3)  
(表3.4.1)～  
(表3.4.3)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2		

脱気装置  
・設ける(設置数量・図示(図面番号: ), 材質( ))  
・設けない

3

合成高分子系ルーフィングシート防水

(3.5.2)

ルーフィングシート  
種類・改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による・( )  
厚さ・改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による・( )  
絶縁用シート・発泡ポリエチレンシート  
固定金具の材質及び寸法形状・図示( )  
断熱工法の断熱材 (P0S1, S4S1, S3S1, M4S1)  
材質、厚さ( )  
・図示( )

(3.5.3)  
(表3.5.1)～  
(表3.5.3)

工法	種別	種別	仕上塗料
・S3S ・S3S1	・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)		

(3.5.3)

脱気装置  
・設ける(設置数量・図示(図面番号: ), 材質( ))  
・設けない

(3.5.4)

既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合  
目地処理・図示(図面番号: )  
増張り・図示(図面番号: )  
機械式固定方法  
風圧力に対応した工法・図示(図面番号: )  
保護層の施工・図示(図面番号: )

④

塗膜防水

(3.6.3)  
(表3.6.1)  
(3.6.3)(1)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
・POX ・L4X	・X-1 ・X-1H ・X-2H	図示	
	・自閉樹脂塗膜防水(A-2)	図示	

脱気装置  
・設ける(設置数量・図示(図面番号: ), 材質( ))  
・設けない

(3.6.3)(2)

工法	種別	施工箇所
・PIY ・P2Y	・Y-2	

  
保護層・図示(図面番号: )

5

既存防水層表面の仕上塗装の除去

(3.2.6)(3)(4)  
(3.2.6)(3)(a)

(M4AS, M4AS1, M4C, M4D1)  
(L4X)  
・行う・行わない  
・行う・行わない

⑥

シーリング

(3.7.2)  
(表3.7.1)  
(3.7.4)～  
(3.7.8)

材料  

種類	材種	施工箇所
・SR-1	シリコーン系	
・MS-2	変成シリコーン系	取合い部
・PS-2	ポリサルファイド系	
・PU-2	ポリウレタン系	

  
工法  
・シーリング充填工法  
・シーリング再充填工法  
・拡幅シーリング再充填工法  
・ブリッジ工法  
  
シーリング材の試験  
・簡易接着性試験  
・引張接着性試験  
・行わない  
  
材質  
・硬質ポリ塩化ビニル管(カラー)  
・配管用鋼管(白管)  
・( )  
  
⑧

アルミニウム製

(3.9.2)(3)  
(表3.9.1)  
(3.9.3)(2)  
(3.9.2)(4)  
(3.9.3)

笠木  
・押し出し150形  
・押し出し300形(カラー)  
・押し出し350形  
・板材折曲げ形(本体幅( )mm、板厚・2.0mm・( ))  
  
固定金具の間隔( )mm  
固定方法・( )  
  
表面処理・( )  
工法 既存笠木等の撤去・図示(図面番号: )  
下地補修の工法・図示(図面番号: )  
板材折曲げ形の笠木の取付方法・図示(図面番号: )  
笠木固定金具の工法・図示(図面番号: )  
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したが固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。

9

保証書

4

外壁改修工事

1

施工数量調査

・行う・行わない  
調査範囲・全面・( )  
調査項目  
・ひび割れ部(幅0.2mm未満・0.2mm以上～1.0mm以下・1.0mm以上超)  
・はがれ及びはく落部分  
・浮き部  
調査方法・打診、目視及びクラックスケール等(足場・ゴンドラ)  
報告書 2部(立面図等に記載、必要に応じて写真添付)

2

改修工法の種類

(4.1.4)  
(4.1.5)

外壁	種類	改修工法
・コンクリート打放し 仕上げ外壁	ひび割れ部 欠損部	・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ・充填工法
・モルタル塗り仕上げ外壁	ひび割れ部 欠損部 浮き部	・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ・充填工法 ・モルタル塗替え工法 ・アンカーピンニング ・部分エポキシ樹脂注入工法 ・全面エポキシ樹脂注入工法 ・全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング ・部分エポキシ樹脂注入工法 ・全面エポキシ樹脂注入工法 ・全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・充填工法 ・モルタル塗替え工法
・タイル張り仕上げ外壁	ひび割れ部 欠損部 浮き部 目地	・樹脂注入工法 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・アンカーピンニング ・部分エポキシ樹脂注入工法 ・全面エポキシ樹脂注入工法 ・全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング ・部分エポキシ樹脂注入工法 ・全面エポキシ樹脂注入工法 ・エポキシ樹脂注入タイル固定工法 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法
・塗り仕上げ外壁	新規仕上	・薄付け仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・複層仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・マステック塗材塗り ・外壁用塗膜防水材塗り

3

改修工法等

(4.2.4)(1)  
(4.2.5)  
(4.3.6)  
(4.4.6)  
(4.2.4)(2)  
(4.2.6)  
(4.3.7)  
(4.2.4)(3)  
(4.2.7)  
(4.3.8)  
(4.2.4)(4)  
(4.2.8)  
(4.3.9)  
(4.3.5)(5)  
(4.3.10)  
(4.3.5)(6)  
(4.3.11)  
(4.4.9)  
(図4.3.1)  
(4.3.5)(6)  
(4.3.12)  
(4.4.10)  
(図4.3.2)  
(4.3.5)(6)  
(4.3.13)  
(4.4.11)  
(図4.3.2)  
(4.3.5)(7)  
(4.3.14)  
(4.4.12)  
(図4.3.3)  
(4.3.5)(7)  
(4.3.15)  
(4.4.13)  
(図4.3.4)  
(4.3.5)(7)  
(4.3.16)  
(4.4.14)  
(図4.3.4)  
(4.4.5)(4)  
(4.4.7)  
(4.4.5)(4)  
(4.4.8)  
(表4.4.5)  
(4.4.15)  
(4.4.5)(5)  
(4.4.16)

・樹脂注入工法  
種類  
・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法  
注入量(25ml) 注入間隔(200mm、250mm)  
・手動式エポキシ樹脂注入工法  
注入量( ) 注入口間隔( )  
・機械式エポキシ樹脂注入工法  
注入量( ) 注入口間隔( )  
材質 エポキシ樹脂JIS A6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)  
コア抜取検査・行う・行わない  
・抜取り個数( )  
・抜取り部分補修方法( )  
  
・ウカットシール材充填工法  
材質  
・シーリング用材充填  
(・PU-1・PU-2・( ))  
・可とうエポキシ樹脂充填  
シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填  
・行う・行わない  
  
・シール工法  
材質  
・パテ状エポキシ樹脂  
・可とうエポキシ樹脂  
  
・充填工法  
材質  
・エポキシ樹脂モルタル  
・ポリマーセメントモルタル  
  
・モルタル塗替え工法  
材質  
・現場調査材料  
・既調査材料  
・既製目地材の適用及び形状( )  
・仕上げ厚( )  
  
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法  
アンカーピン数の本数・標準・( )  
材質  
・ステンレス鋼(SUS304)・( )  
  
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法  
アンカーピン数の本数及び注入口の数・標準・( )  
材質  
・ステンレス鋼(SUS304)・( )  
  
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法  
アンカーピン数の本数及び注入口の数・標準・( )  
材質  
・ステンレス鋼(SUS304)・( )  
  
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法  
注入口付アンカーピンの本数・標準・( )  
材質  
・ステンレス鋼(SUS304)・( )  
呼び径・6mm・( )  
  
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法  
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数・標準・( )  
材質  
・ステンレス鋼(SUS304)・( )  
呼び径・6mm・( )  
  
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法  
注入口付アンカーピンの本数及び注入口の配置・標準・( )  
材質  
・ポリマーセメントスラリー( )  
・注入口付アンカーピン(・ステンレス鋼(SUS304)・( ))  
呼び径・6mm・( )  
  
・タイル部分張替え工法  
張替え材料  
・ポリマーセメントモルタル  
・接着剤(一液反応硬化型変成シリコーン樹脂)・( )  

施工箇所	形状	寸法	耐滑り性	標準・特注色の別	耐凍害性の有無

  
・役物(・一体成形・接着加工)  
・試験張り・行う・行わない  
・見本焼き・行う・行わない  
・既調査モルタル・使用する・使用しない  
  
(4.4.5)(4)  
(4.4.8)  
(表4.4.5)  

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	塗り厚(mm)
・外装タイル	小口平 二丁掛 100角	・密着張り ・改良圧着張り	5～8 下地側 4～6 タイル側 1～3
・ユニットタイル	50二丁以下	・マスク張り ・モザイクタイル貼り	3～4 3～5

  
・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法  
注入口付アンカーピンの本数(本)  
  
・目地ひび割れ部改修工法  
・伸縮調整目地改修工法  
伸縮調整目地  
(位置 寸法 × )  
検査 シーリング接着性試験  
・行う(・簡易接着性試験・引張接着性試験)

株式会社 田中孝建築設計事務所

一級建築士事務所第1－2091号  
三重県津市三重町津興433－47  
TEL 059－226－7150 FAX 059－226－4960

一級建築士第123009号  
田中 孝

制作年月日

備考

工事名称  
津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

図面名称・縮尺  
特記仕様書－2

No.  
A02  
原図 A2

[illegible]



⑧ の 5  耐震 改修 工事  あと 施工 アンカー 工事	①  (あと施工アンカー) あと施工アンカーの材料 (8.2.4) (表8.2.2)	種類 ・ 金属系   セットの方式   ・ 本体打込み式   (   ・   改良型   ・   従来型 ) 径及び埋込み長さ   ・ 図示 (図面番号:   ) 引張耐力   ・ 図示 (図面番号:   ) せん断耐力   ・ 図示 (図面番号:   ) 接合筋の種類・径・長さ   ・ 図示 (図面番号:   ) ・ 接着系   アンカーの種類   ・ カプセル型回転・打撃式   ・ (   ) ・ 接着剤の品質   ・ 有機系   ・ 無機系 径及び埋込み長さ   ・ 図示 (図面番号:   ) 引張耐力   ・ 図示 (図面番号:   ) せん断耐力   ・ 図示 (図面番号:   ) アンカー筋の種類   ・ 図示 (図面番号:   ) アンカー筋の新設壁内への定着長さ   ・ 図示 (図面番号:   ) あと施工アンカーの性能確認試験   ・ 行う   ・ 行わない	②  (あと施工アンカーの施工) (8.12.4) (8.12.6) (8.12.7)	穿孔 埋込み配管等の探査の方法 ・ 鉄筋探知機 (金属探知機) により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ・ はつり出しによる。 ・ (   ) あと施工アンカーの施工確認試験   ・ 実施する   ・ 実施しない 試験方法   ・ 引張試験機による引張試験   ・ (   ) 1 ロットの単位   ・ 1 日に施工されたものの径及び仕様ごと   ・ (   ) 試験の箇所数   ・ 1 ロットに対し 3 本 (無作為)   ・ (   ) 確認強度   ・ (   )	(場所打ちコンクリート壁の増設工事) 3   シアコネクター	⑧ の 6  耐震 改修 工事  鉄骨 工事	①  (鉄骨製作工場) (8.1.5)	②  鉄骨製作工場における 施工管理技術者   (8.1.6)	③  鋼材   (8.2.8)	4  高力ボルト   (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	5  溶接材料   (8.2.10)	6  仮組   (8.13.10)	⑦  溶接作業を行う 技能資格者   (8.15.3)	8  溶接の準備   (8.15.4)	9  溶接施工   (8.15.7)	10  溶接部の試験   (8.15.12)	⑧ の 7  耐震 改修 工事  グラウト 工事	①  (鉄骨の錆止め塗装) (8.17.2) (8.17.4)	12  耐火被覆材の種類及び性能 (8.18.2) (8.18.3)	13  ブレース設置 工事後の仕上げ (8.22.9)	14  スタッド   (8.2.11)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面 (鉄骨に溶接されたものに限る) ・ 改修標準仕様書 (7.3.2) (表7.3.1)   (   ) 種 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲   ・ 図示 (図面番号:   ) ・ 改修標準仕様書 (7.3.2) (表7.3.1)   (   ) 種 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲   ・ 図示 (図面番号:   )	<table><tr><th>部位</th><th>種類</th><th>材料・工法</th><th>耐火性能</th></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> ・ 図示 (図面番号:   )	部位	種類	材料・工法	耐火性能									構造体用モルタル ・ 改修標準仕様書 (8.2.6) 及び (8.2.12) による。 無収縮モルタル ・ 改修標準仕様書 (8.2.12) (1) による ・ (   ) グラウト材 ・ 改修標準仕様書 (8.2.12) (2) による。	増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法 <table><tr><th>部位</th><th>処置方法</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 増設壁の上部</td><td>・ グラウト材を注入</td><td>・ 寸法は図示による</td></tr><tr><td>・ (   )</td><td>・ (無収縮モルタルを注入)</td><td>・ (   )</td></tr><tr><td>・ (   )</td><td>・ (   )</td><td>・ (   )</td></tr></table>	部位	処置方法	備考	・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入	・ 寸法は図示による	・ (   )	・ (無収縮モルタルを注入)	・ (   )	・ (   )	・ (   )	・ (   )	2  既存構造体との 取合部の処理 方法   (8.21.9) (8.22.7)	⑧ の 8  耐震 改修 工事  柱 補強 工事	(連続繊維補強工事) 1   連続繊維シート 等による工法   (8.24.1)	2  連続繊維シート 及び含浸接着樹脂等の材料   (8.2.13)	3  連続繊維シート の施工準備	4  鋼板巻き工法及び 帯板巻き付け 工法   (8.23.6)	5  耐震補強後の仕 上げ   (8.23.7) (8.24.7)	6  炭素繊維シート の施工	7  連続繊維補強材 の強度試験   (8.24.6)	連続繊維による補強、補修工法 ・ (財) 日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・ (   )  連続繊維の材料 ・ (   ) 工法 ・ (   ) 引張強度 (含浸硬化後) ・ (   ) ヤング係数 (含浸硬化後) ・ (   )  仕上げモルタルの除去 ・ 既存構造全体面まで除去する ・ モルタル除去は行わない ・ (   ) 既存モルタルの圧縮強度測定 ・ 行う (   ) ・ 行わない ひび割れ部の改修工法 ・ 樹脂注入工法 ・ リカットシール材充填工法 ・ シール工法  柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示 (図面番号:   )  ・ 図示 (図面番号:   )  炭素繊維の目付量 ・ 図示 (図面番号:   ) ・ 200g/m <sup>2</sup> ・ 300g/m <sup>2</sup> ・ (   ) 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示 (図面番号:   ) ・ 1 巻き ・ 2 巻き ・ (   )  引張強度試験 ・ 実施する (JIS A1191に準拠する)   ・ 実施しない 試験数量 (   ) 付着強度試験 ・ 実施する (JIS A6909に準拠する)   ・ 実施しない 試験数量 (   )	⑧ の 9  耐震 補強 工事  スリット 新設 工事  免震 改修 工事  制振 改修 工事	(耐震スリット新設工事) 1   スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)	2   スリットの施工	3   免震・制振改修 (8.26.1) ~ (8.27.9)	耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状 <table><tr><th> </th><th>一般型</th><th>一面せん断型</th><th> </th></tr><tr><td>記号</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td>形状</td><td>・ 図示 (図面番号:   )</td><td>・ 図示 (図面番号:   )</td><td> </td></tr><tr><td>幅W (mm)</td><td>・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )</td><td>・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )</td><td> </td></tr><tr><td>既存鉄筋の処理</td><td>・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ (   )</td><td>・ 切断してよい ・ (   )</td><td> </td></tr></table> 部分スリットの形状 <table><tr><th> </th><th>片側スリット</th><th>両面スリット</th><th> </th></tr><tr><td>記号</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td>形状</td><td>・ 図示 (図面番号:   )</td><td>・ 図示 (図面番号:   )</td><td> </td></tr><tr><td>幅W (mm)</td><td>・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )</td><td>・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )</td><td> </td></tr><tr><td>目地部の残存厚さ</td><td>・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td><td>・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td><td> </td></tr><tr><td>ts (mm)</td><td>・ (   )</td><td>・ (   )</td><td> </td></tr><tr><td>既存鉄筋の処理</td><td>・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ (   )</td><td>・ 存置する ・ 切断してよい</td><td> </td></tr></table> スリット部の配管等の調査 範囲   ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   ) 方法   ・ 鉄筋探査機 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 スリットの逃げ位置 壁上端部   ・ 梁との接合部   ・ (   ) 壁の柱きわ部   ・ 柱の仕上げを逃げたきわ部   ・ (   ) 壁下端部   ・ 床仕上り部   ・ 床体上部   ・ (   ) 撤去部の補修 ・ 図示 (図面番号:   ) 充填材 ・ 耐火材   使用箇所 (   )   仕様 (   ) ・ 遮音材   使用箇所 (   )   仕様 (   )  免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。		一般型	一面せん断型		記号				形状	・ 図示 (図面番号:   )	・ 図示 (図面番号:   )		幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )		既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ (   )	・ 切断してよい ・ (   )			片側スリット	両面スリット		記号				形状	・ 図示 (図面番号:   )	・ 図示 (図面番号:   )		幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )		目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下		ts (mm)	・ (   )	・ (   )		既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ (   )	・ 存置する ・ 切断してよい		⑧ の  その他 工事	①   土工事   (8.28.2) (8.28.3)	2   地業工事   (8.28.4)	既存杭の撤去 ・ 図示 (図面番号:   ) 埋戻し及び盛土の材料及び工法 ・ A種   ○   B種   ・ C種   ・ D種 建設発生土の処理 ・ 処分地指定   処分地 (   ) ・ 処分地未定につき相互協議する。 暫定運搬距離   ・ 8km   ・ 4km   ・ (   ) 山留めの撤去 ・ 撤去 (鋼矢板等の抜き跡の処理   ・ 直ちに砂で充填する   ・ (   ) ) ・ 存置  杭の施工監理 杭工事特記仕様書による。 適用基準 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 (平成28年3月4日) 国土交通省告示第468号   「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 施工記録 受注者は、杭の施工期間中は、1   週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。 根拠資料 共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第 3 1 条第 4 項又は第 5 項 (第 3 8 条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から 1 0 年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。 試験杭及び試験据 ・ 試験杭   位置、本数及び寸法は図示 (図面番号:   ) による。 ・ 試験据   位置、本数及び寸法は図示 (図面番号:   ) による。 杭の支持層 支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ   ・ 図示 (図面番号:   )   ・ (   ) 水平方向の位置ずれの精度 ・ (   ) mm以下 杭の載荷試験 試験方法   ・ 鉛直載荷   ・ 水平載荷   ・ (   ) 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置   ・ 図示 (図面番号:   )   載荷荷重   (   kN) 報告書   ・ 提出部数   2部
	部位	種類	材料・工法	耐火性能																																																																																																																
部位	処置方法	備考																																																																																																																		
・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入	・ 寸法は図示による																																																																																																																		
・ (   )	・ (無収縮モルタルを注入)	・ (   )																																																																																																																		
・ (   )	・ (   )	・ (   )																																																																																																																		
	一般型	一面せん断型																																																																																																																		
記号																																																																																																																				
形状	・ 図示 (図面番号:   )	・ 図示 (図面番号:   )																																																																																																																		
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )																																																																																																																		
既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ (   )	・ 切断してよい ・ (   )																																																																																																																		
	片側スリット	両面スリット																																																																																																																		
記号																																																																																																																				
形状	・ 図示 (図面番号:   )	・ 図示 (図面番号:   )																																																																																																																		
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )	・ 図示 (図面番号:   ) ・ (   )																																																																																																																		
目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下																																																																																																																		
ts (mm)	・ (   )	・ (   )																																																																																																																		
既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ (   )	・ 存置する ・ 切断してよい																																																																																																																		
株式会社 田中孝建築設計事務所																	一級建築士事務所第1－2091号 三重県津市三重町津興433－47 TEL 059－226－7150   FAX 059－226－4960	一級建築士第123009号 田中   孝	制作年月日	備考	工事名称 津市モーターボート競走場仮設棟改修工事	図面名称・縮尺 特記仕様書－4	No. A04 原図 A2																																																																																													

⑨

環境配慮改修工事

①

石綿含有建材の除去工事  
(9.1.1)

・石綿粉じん濃度測定  
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	計 点
・	測定 2		・調査対象室外部の付近 ・処理作業室外（敷地境界）	計 点
・	測定 3		処理作業室内	計 点
・	測定 4	処理作業中	負圧・除じん装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/s 以下の位置 計 点
・	測定 5		処理作業室外（敷地境界）	計 点
・	測定 6		・処理作業室内 ・処理作業室外（敷地境界）	計 点
・	測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	計 点
・	測定 8		調査対象室外部の付近	計 点

測定方法

	測定 3	測定 1,4,7,8	測定 2,5,6
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・ 1 ・ ( )	・ 5 ・ ( )	・ 10 ・ ( )
試料の吸引時間(min)	・ 5 ・ ( )	・ 120 ・ ( )	・ 240 ・ ( )

(9.1.3)

・石綿含有吹付け材の除去  
除去対象範囲  
除去工法  
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止  
・ 湿潤化  
・ 固形化  
除去した石綿含有吹付け材等の処分  
・ 埋立処分（管理型最終処分場）  
・ 中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.4)

・石綿含有保温材等の除去  
除去対象範囲  
除去方法  
除去した石綿含有保温材等の処分  
・ 埋立処分（管理型最終処分場）  
・ 中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.5)

○石綿含有成形板の除去  
除去対象範囲  
石綿含有せっこうボードの処分  
・ 埋立処分（管理型最終処分場）  
石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分  
○埋立処分（安定型最終処分場）  
○中間処理（溶融又は無害化による）

(9.1.6)

○石綿含有仕上塗材の除去  
除去対象範囲  
除去した石綿含有仕上塗材等の処分  
○埋立処分（安定型最終処分場）  
○中間処理（溶融又は無害化による）  
※大気汚染防止法および石綿障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル（令和3年3月）」に基づき適切に処理すること。  
○除去等作業の結果報告  
除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

⑩

解体施工

1 浄化槽、排水槽等  
【3.2.1】

汚水、汚物の回収、洗浄、消毒等  
・ 行う  
・ 行わない

2 オイルツ、サビスタンク配管内等  
【3.2.1】

廃油の回収、洗浄等  
・ 行う  
・ 行わない

3 杭の撤去  
【3.9.2】

杭の撤去  
・ 行う  
・ 行わない  
解体方法  
・ 引抜き工法（ ・ 振動 ・ ケーシング ・ ( ) ）  
・ 破砕  
・ 図示（図面番号： ）  
引き抜いた杭の処理  
・ 図示（図面番号： ）

④さく、照明設備等  
【3.10.1】

さく、照明設備等の付属物の解体  
・ 図示（図面番号： ）

5 樹木等  
【3.11.1】

樹木の伐採抜根及び移植  
・ 行う  
・ 図示（図面番号： ）  
・ 行わない

6 地下埋設物及び埋設配管  
【3.12.1】

地下埋設物及び埋設配管の解体  
・ 行う  
・ 図示（図面番号： ）  
・ 行わない

7 解体撤去後の整地  
【3.13.1】

・砕石（C-40）にて周辺地盤面まで埋め戻すこと。  
・再生クラッシャーラン（RC-40）にて周辺地盤面まで埋め戻すこと。  
・山砂及び既存盛土にて周辺地盤面まで埋め戻すこと。

⑪

建設廃棄物の処理

1 産業廃棄物  
広域認定制度  
【4.4.2】

2 最終処分  
【4.4.3】

3 処理に注意を要する建設廃棄物  
【4.5.1】

④水銀使用製品産業廃棄物

5 水銀含有ばいじん等

特例による広域処理  
・ 図示（図面番号： ）

最終処分する廃棄物  
・ ( )  
最終処分場  
・ ( )

建設廃棄物の種類	処理方法
・ C C A処理木材	
・ (1)アスベスト含有石膏ボード	
・ (2)ひ素、カドミウム含有石膏ボード	
・ (1) (2)以外の石膏ボード	・埋立処分 ・再資源化

○蛍光灯  
・ H I Dランプ  
・ ( )  
「水銀廃棄物ガイドライン」（第3版）（令和3年3月 環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。

・ 燃え殻  
・ 鉱さい  
・ ばいじん  
・ 汚泥  
・ 腐酸  
・ 炭アルカリ  
「水銀廃棄物ガイドライン」（第3版）（令和3年3月 環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。

⑫

特殊な建設副産物の処理

1 施工計画調査  
【7.1.3】

②特殊な建設副産物  
【7.3.1】

③フロン類の回収

④フロン回収

分析調査  
・ 行う  
・ 行わない  
調査範囲  
図示（図面番号： ）

種類	適用箇所	回収及び処分
○フロン		・ ( )
・ハロン		・ ( )
		・ ( )

特殊な建設副産物の種類等

冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編2.4.3）により、次の書類の写しを監督員に提出すること。  
○フロン回収行程管理票  
・特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）  
撤去する前にフロンを屋外機ユニットを集める作業（ポンプダウン）を行うこと。  
パッケージ形空調機の移設等により、冷媒の回収が必要となる場合においても上記に準じて、冷媒の大気中への飛散を防止する措置を講じること。

当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の回収作業を行う場合はフロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（平成27年4月1日施行）等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。

株式会社 田中孝建築設計事務所

一級建築士事務所第1－2091号  
三重県津市三重町津興433－47  
TEL 059－226－7150 FAX 059－226－4960

一級建築士第123009号  
田中 孝

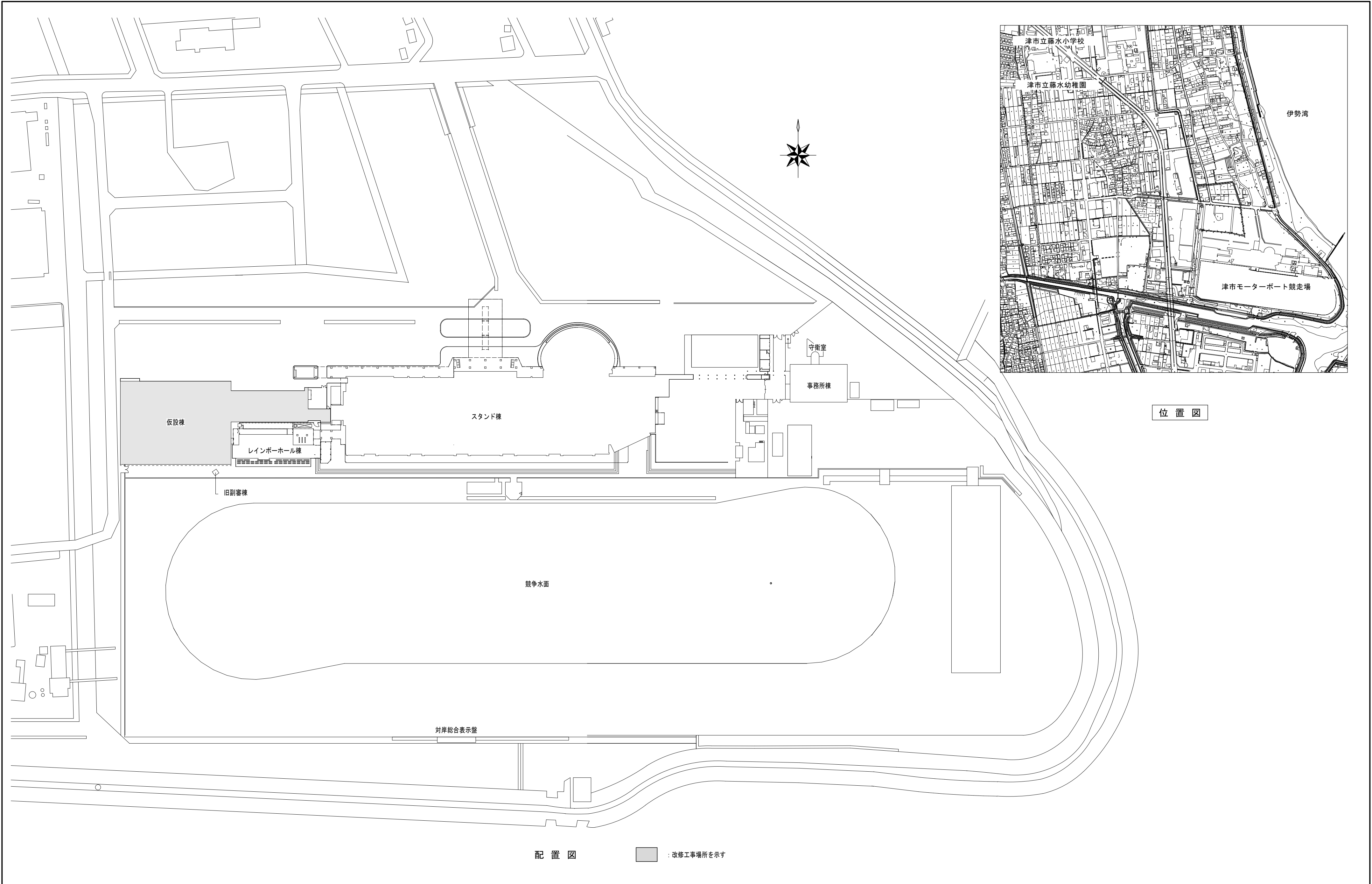
制作年月日

備考

工事名称  
津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

図面名称・縮尺  
特記仕様書－5

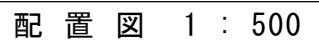
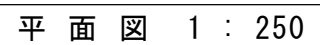
No.  
A05  
原図 A2



位置図

配置図  
：改修工事場所を示す

株式会社 田中孝建築設計事務所	一級建築士事務所第1-2091号 三重県津市三重町津興433-47 TEL 059-226-7150 FAX 059-226-4960	一級建築士第123009号 田中 孝	制作年月日	備考	工事名称 津市モーターボート競走場仮設棟改修工事	図面名称・縮尺 位置図 ・ 配置図	No. A06 原図 A2
-----------------	---	-----------------------	-------	----	-----------------------------	----------------------	------------------

[illegible]

- ## ■ 留意事項

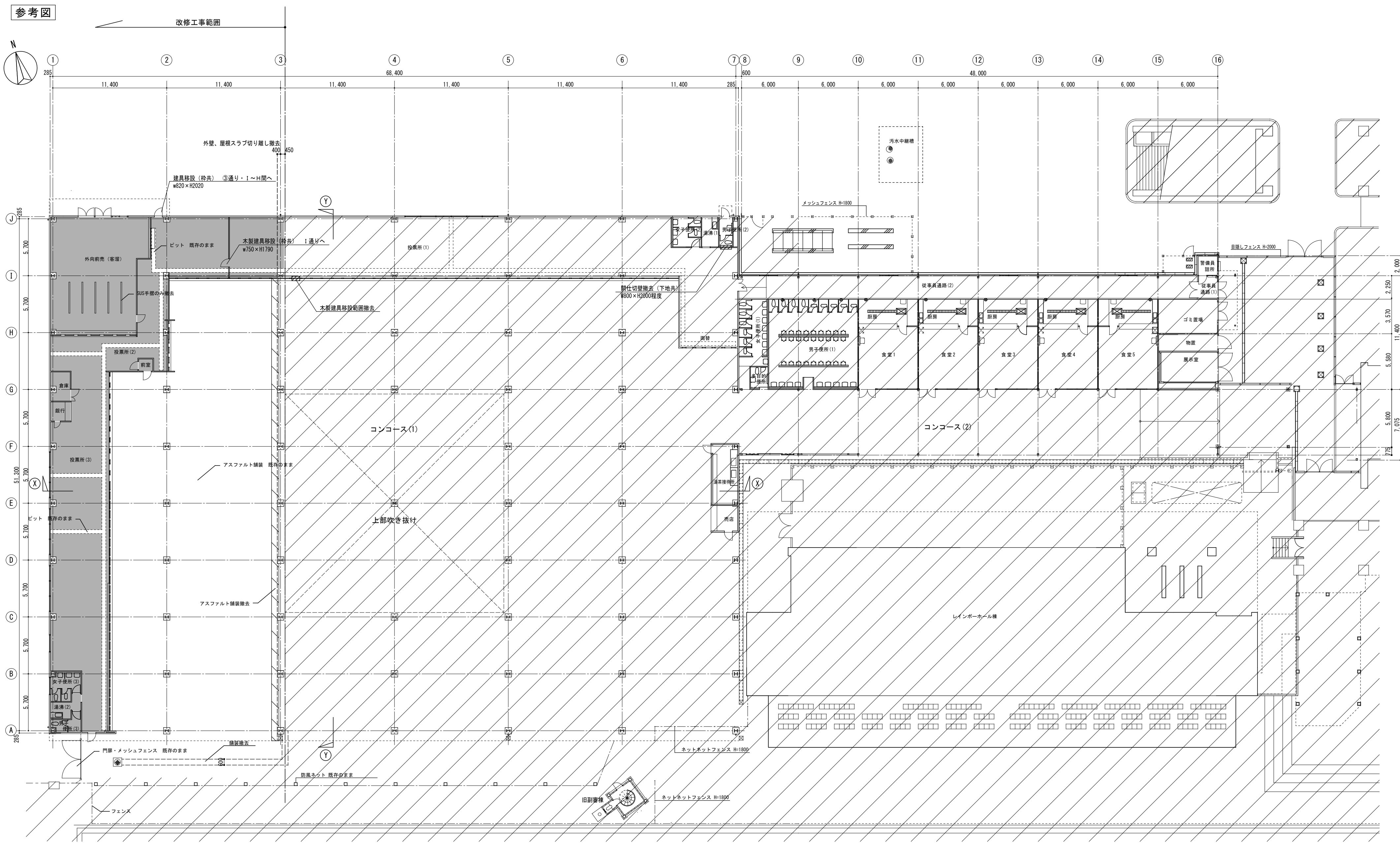
- ・仮設計画や作業員の駐車スペースは監督員と協議の上、決定すること。
- ・充分散水を行い、粉塵対策を講じること。必要に応じて適切な路面等の養生を行い、工事完了後は現状復旧すること。
- ・作業時常時配備のほか、大型工事車両進入時（仮設材搬入時、撤去材搬出時、資材搬入時など）は、交通誘導警備員を配置すること。
- ・本仮設図に記載された仮設設備等は発注者側の積算上の考え方を示したものであって、施工条件として指定したものではないので、施行者の責任のもとに十分に検討し監督員に報告のうえ施工するものとする。

外 部 仕 上 表（仮設棟）				
屋 根	コンクリート金ゴテ シート防水	建 具	アルミ製アルマイト処理	
庇	ルーフデッキ：カラー鋼板 t=0.5	豎 樋	硬質塩化ビニル 150	
パ ラ ペ ッ ト	笠木：カラー鋼板 t=0.5	犬 走 り	アスファルト舗装	
	立上り：コンクリート金ゴテ塗膜防水	水 面 際 立 見	カラーアスファルト舗装	
外 壁	サイディングボード張りEP t=18			
基 礎 立 上 り	コンクリート打放し			

仕 上 表											
室 名	箇所	床	床高	幅 木	腰 壁	壁	塗料	見切縁	天 井	C H	備 考
外向発売(客溜)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	±0	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>	ケイカル板 t=10(一重) LGS	ケイカル板 t=10(一重) LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	3,000	
コンコース(1)	仕 上 下 地	カラーアスファルト舗装	±0		コンクリートブロック化粧積	ケイカル板 t=10（本体にアスベスト含有） LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード、ケイカル板 LGS	3,000	
投票所(1)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>	コンクリートブロック化粧積	石膏ボード t=9.5+12.5 LGS	EP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,500	カウンター 配管ピット
投票所(2)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>	コンクリートブロック化粧積	石膏ボード t=9.5+12.5 LGS	EP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,500	カウンター 配管ピット
前室	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>		石膏ボード t=9.5+12.5 LGS	EP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,500	
倉庫	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>		石膏ボード t=9.5+12.5 LGS	EP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,500	
銀行	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>	コンクリートブロック化粧積	石膏ボード t=9.5+12.5 LGS	EP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,500	カウンター
投票所(3)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>	コンクリートブロック化粧積	石膏ボード t=9.5+12.5 LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,500	カウンター 配管ピット
女子便所(3)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+90	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>		ケイカル板 t=8(一重)（塗材及び本体にアスベスト含有） LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,400	便所ブース
湯沸(2)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>		ケイカル板 t=8(一重)（塗材及び本体にアスベスト含有） LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,400	
男子便所(3)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+90	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>		ケイカル板 t=8(一重)（塗材及び本体にアスベスト含有） LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,400	便所ブース
男子便所(2)	仕 上 下 地	塗床（ウレタン系）（下地調整塗材にアスベスト含有） 土間コンクリート、下 断熱防湿層下地	+100	ビニル幅木 <small>接着剤及び下地調整塗材に 72<sup>△</sup> 含有</small>		ケイカル板 t=8(一重)（塗材及び本体にアスベスト含有） LGS	VP	塩ビ	化粧石膏ボード LGS	2,400	便所ブース

- ※塗床（下地調整塗材共）の除去について
- ・ 除去工法については、集塵装置付き超高压水洗工法（100Mpa以上）及び集塵装置装置付きディスクグラインダーケレン工法の併用とする
  - ・ 発生する処理水については、最終処理膜として0.2μm以下のフィルターによりろ過すること
  - ・ 処理水については、中和処理し、放流前に水質試験を行うこと
  - ・ その他関係法令に基づき、適切に除去、処理及び処分すること

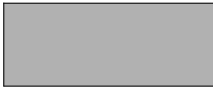




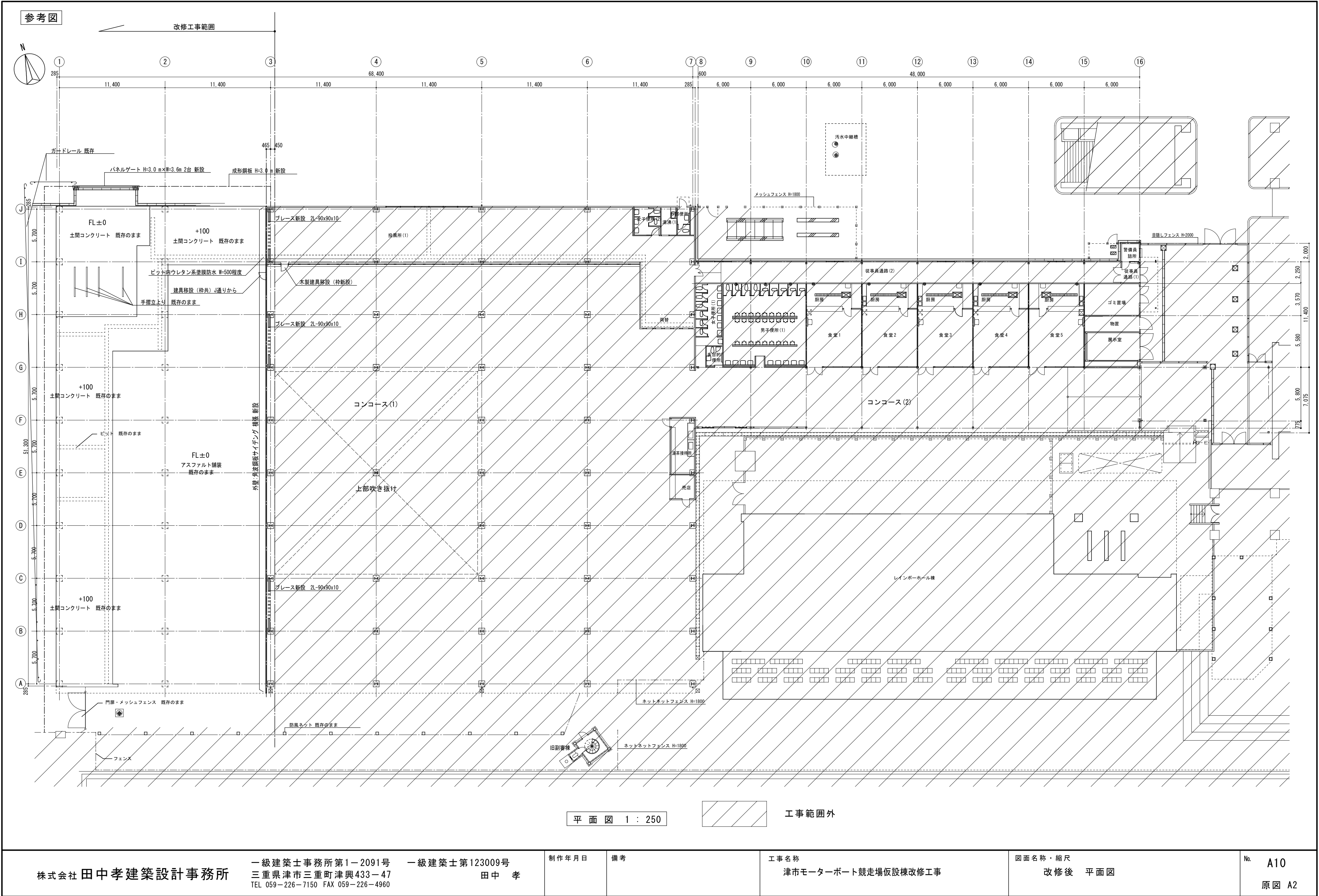
平面図 1:250

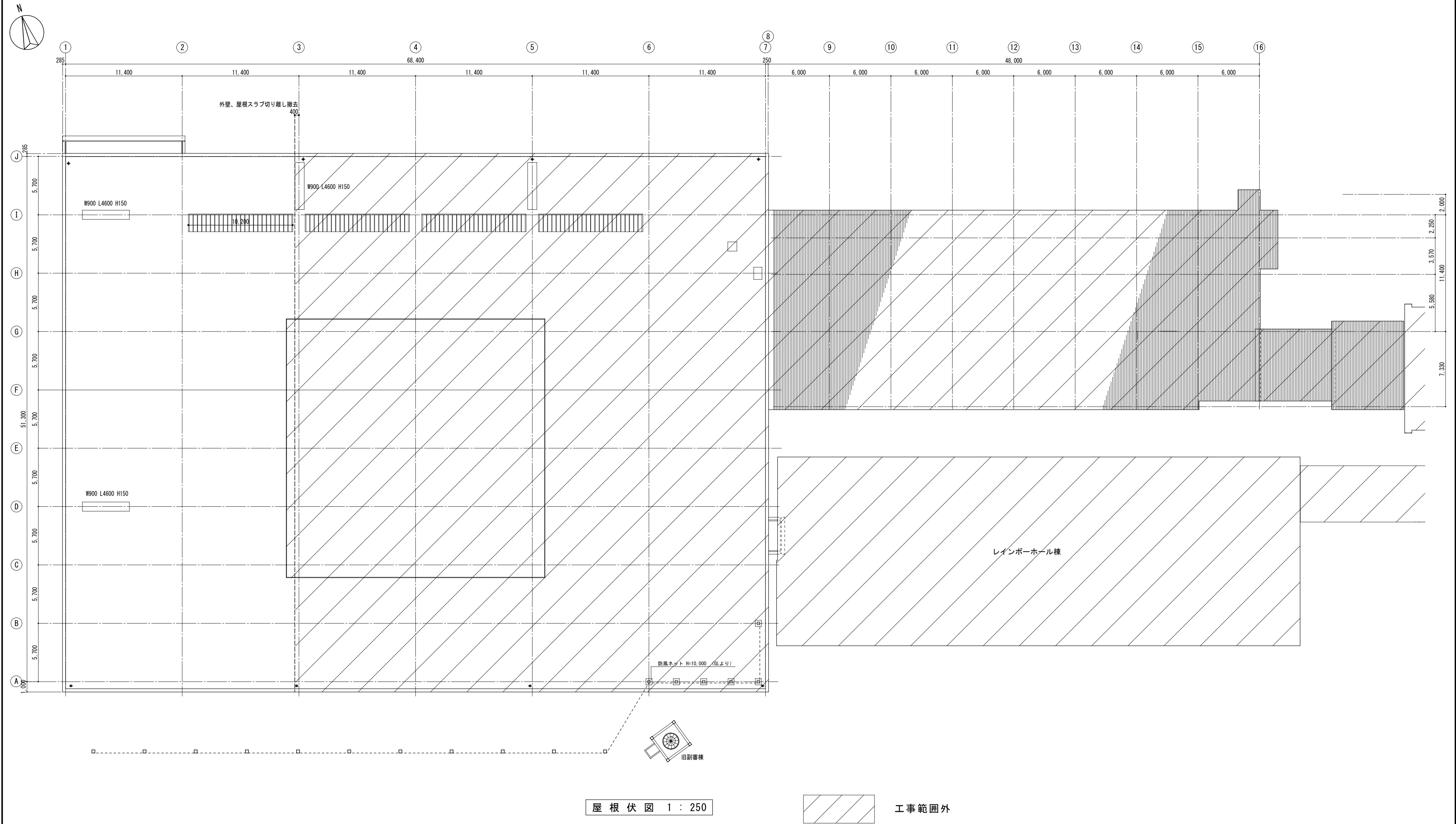


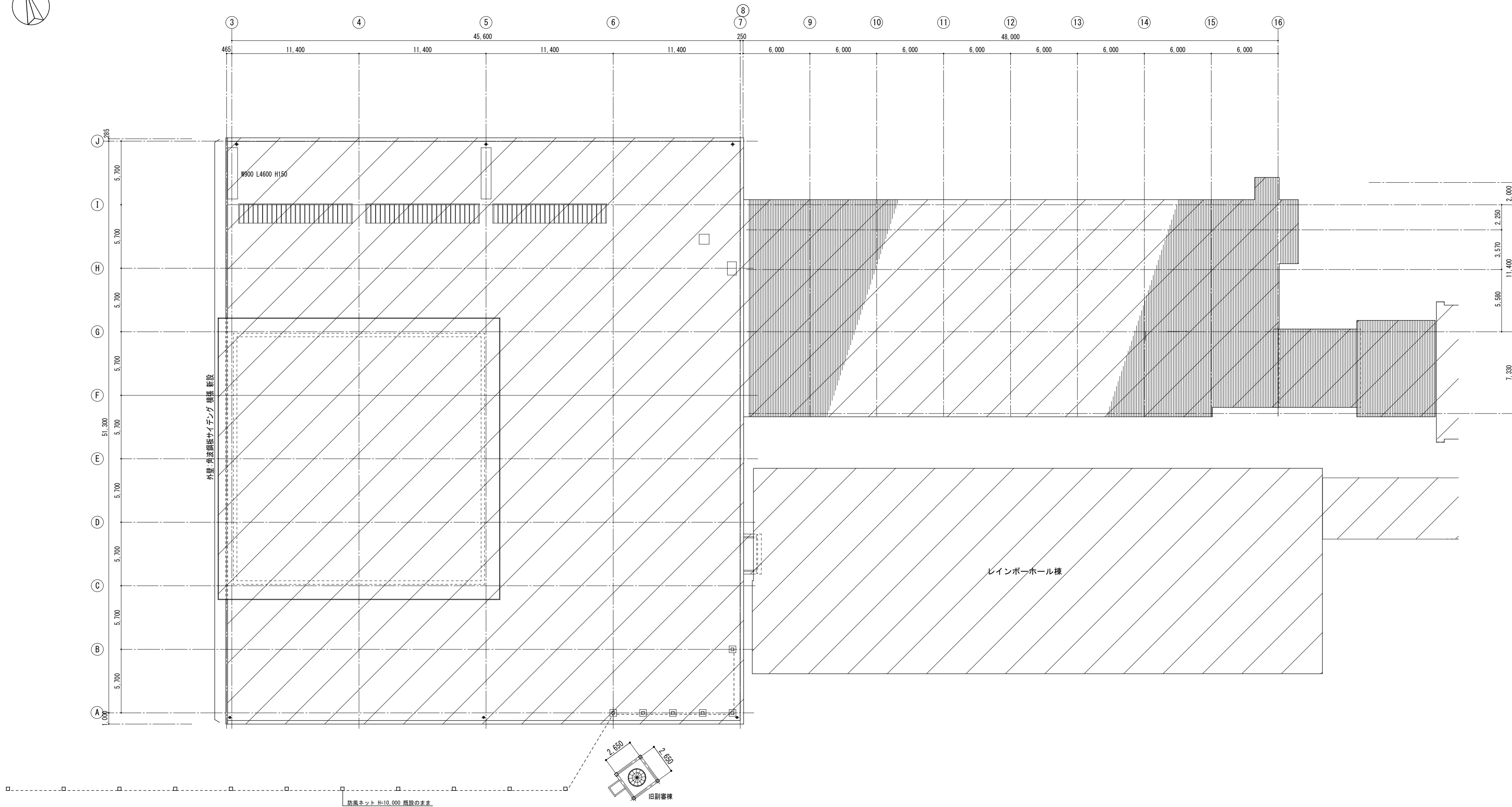
工事範囲外



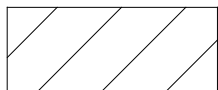
塗床 (下地調整塗材共) 除去範囲を示す





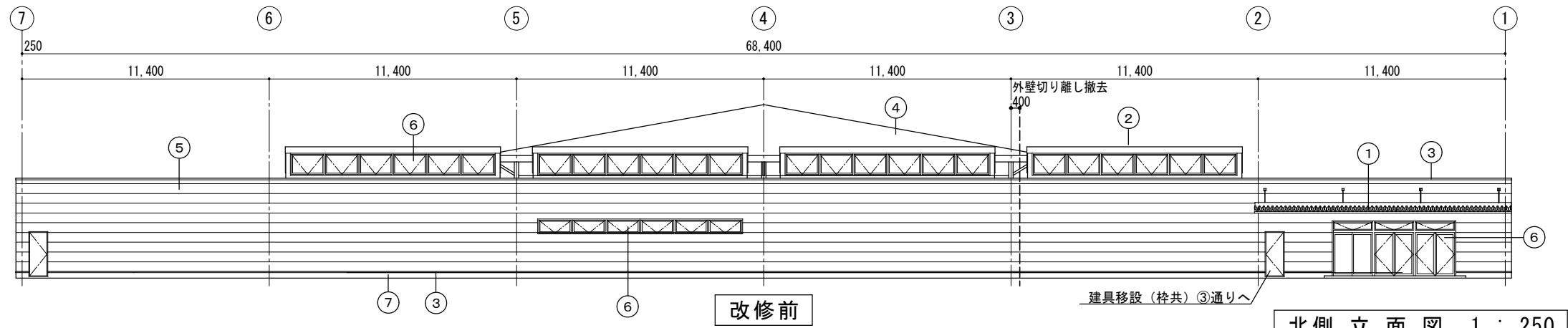


屋根伏図 1 : 250

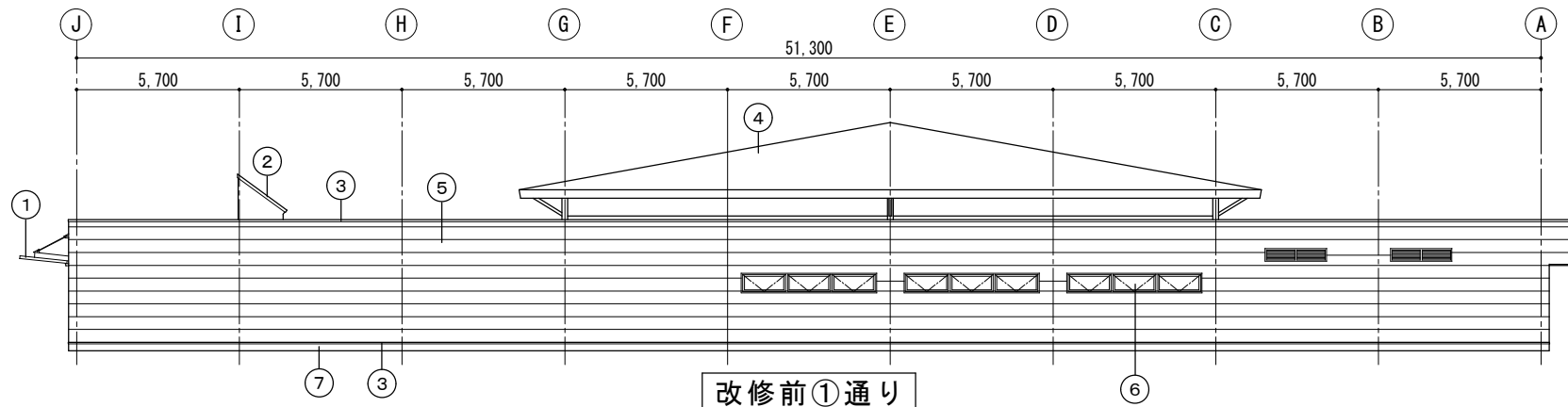


工事範囲外

## 参考図

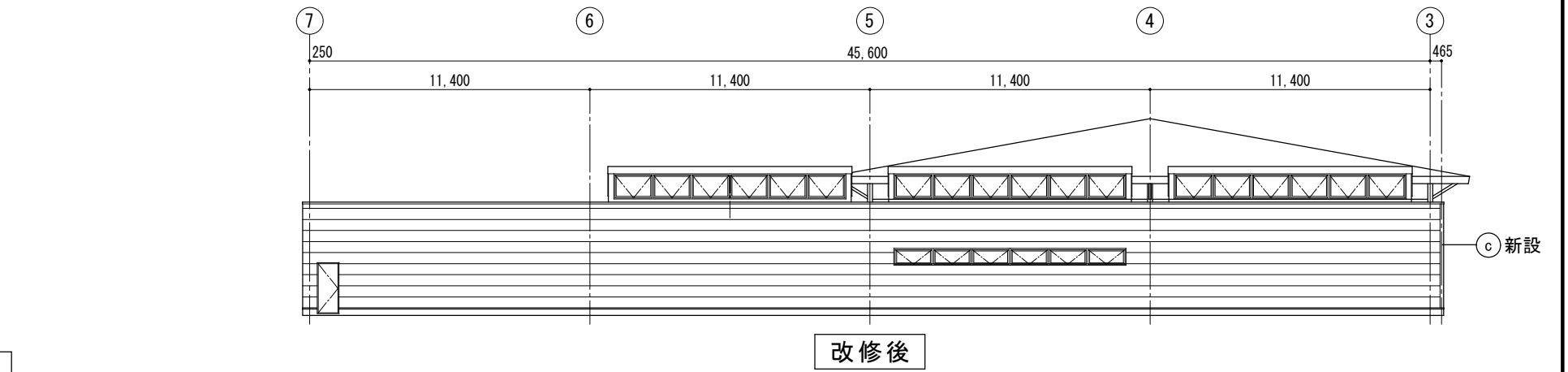


北側立面圖 1 : 250

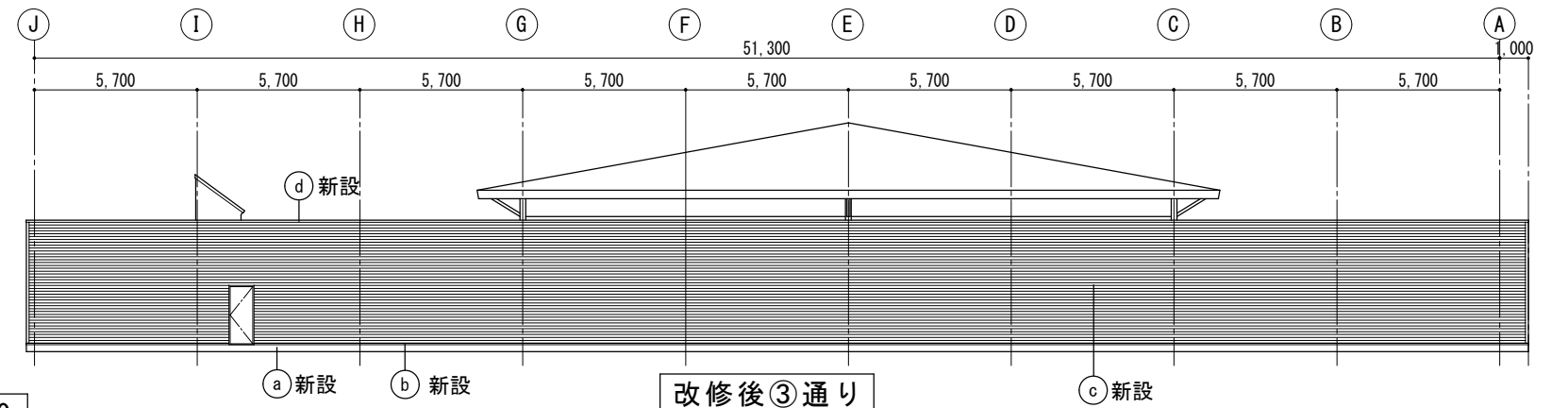


改修前①通り

西側立面図 1 : 250

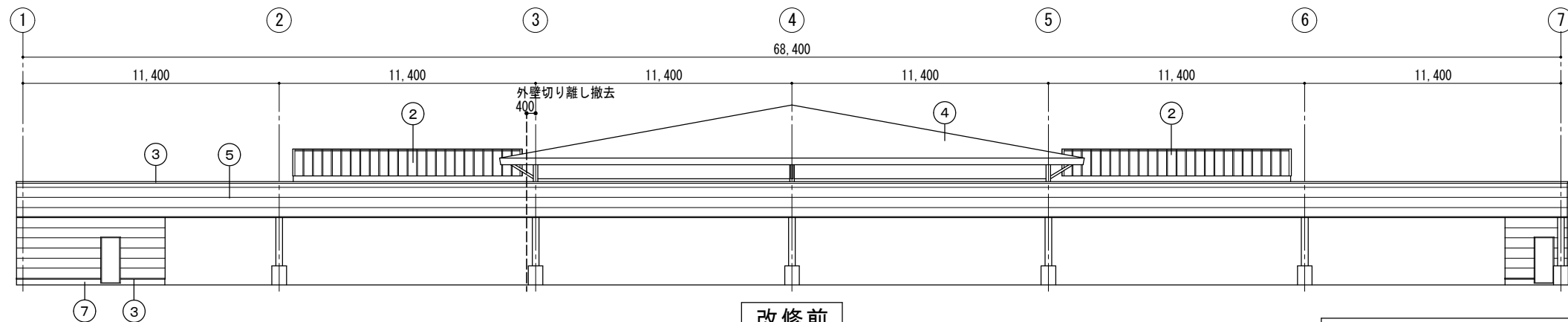


改修後



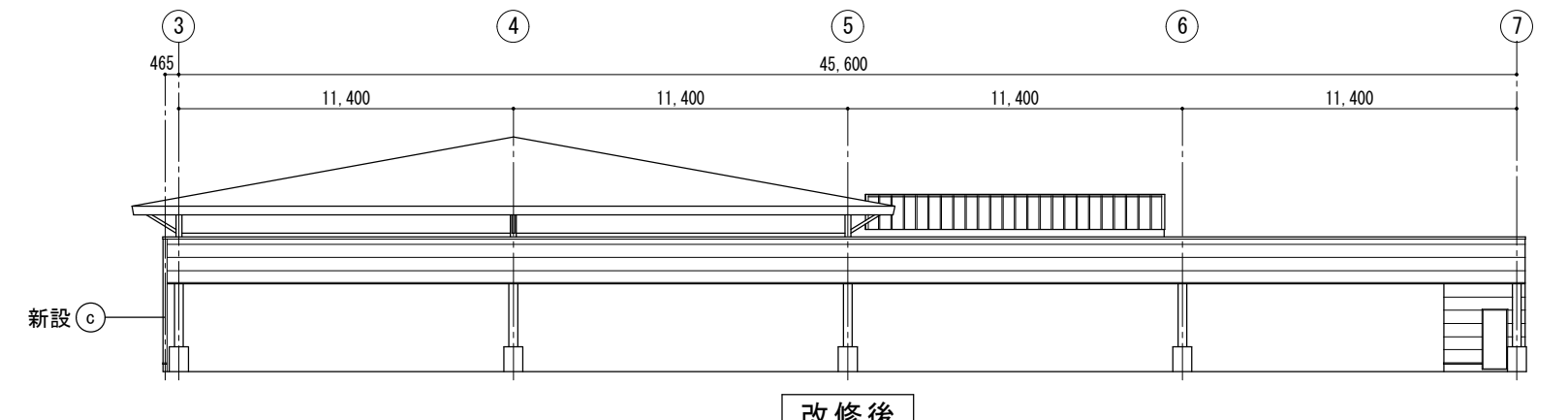
改修後③通り

○新設

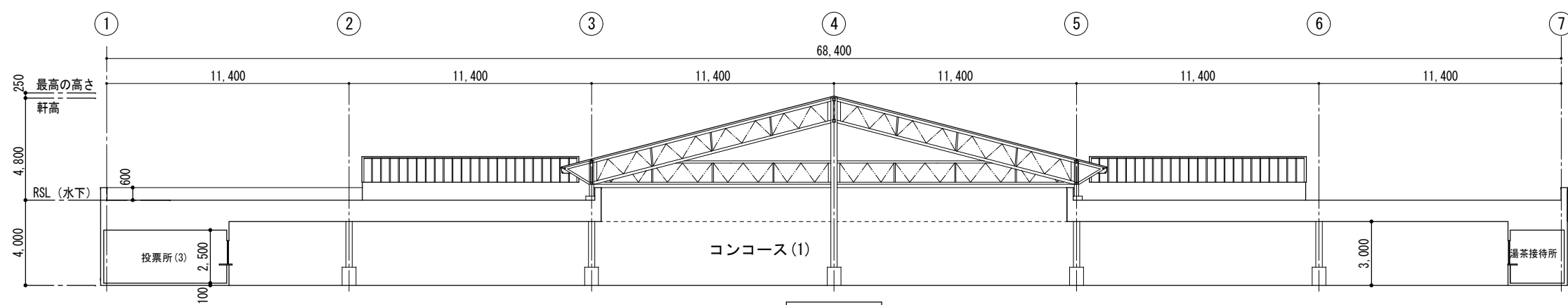


改修前

南側立面圖 1 : 250

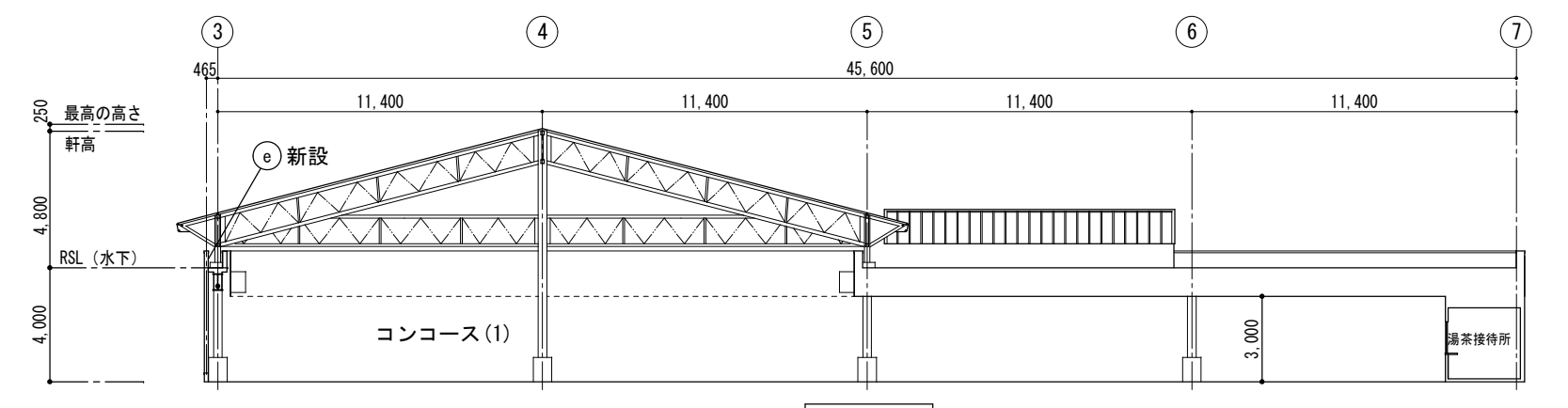


改修後



改修前

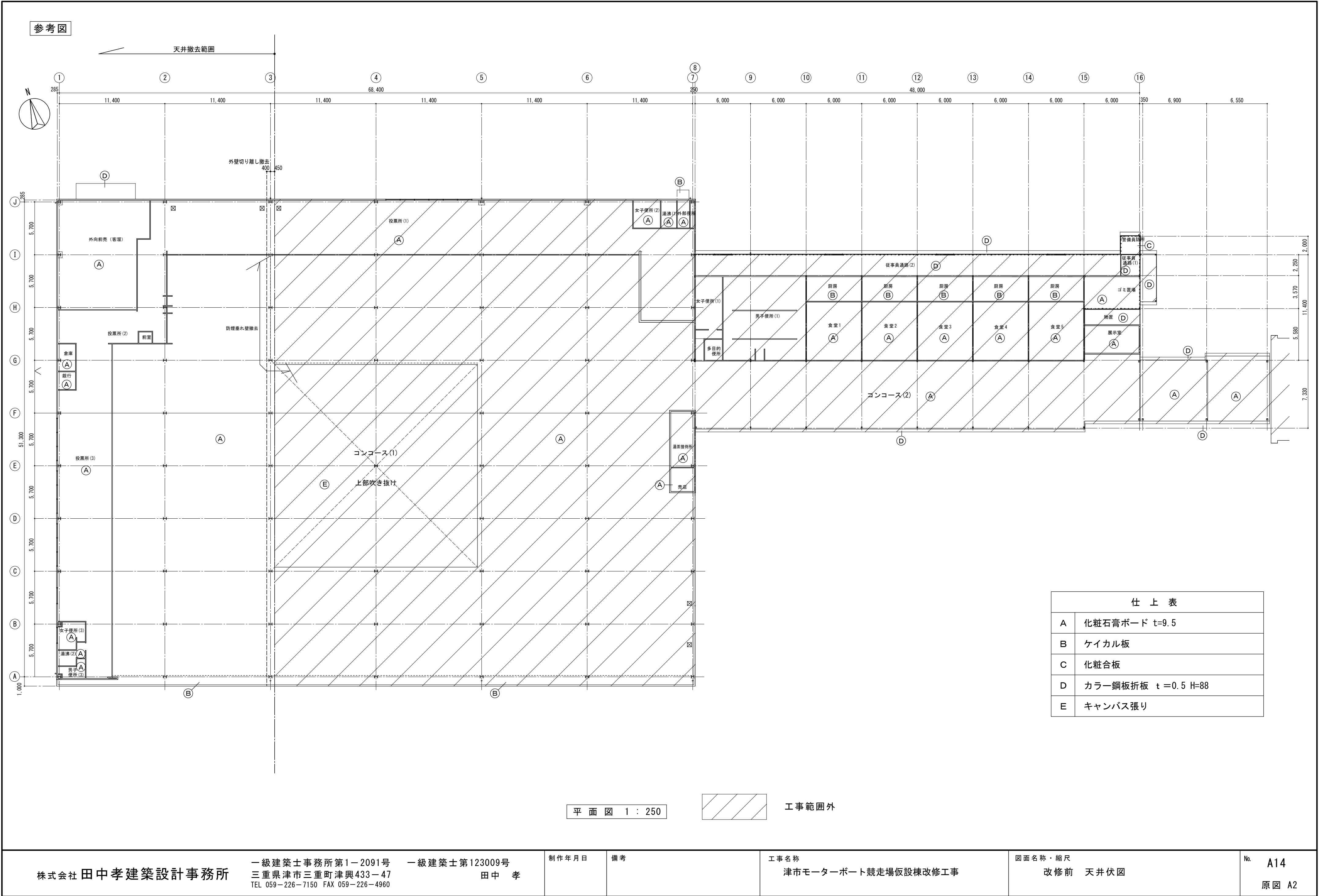
X-X 断面图 1:250



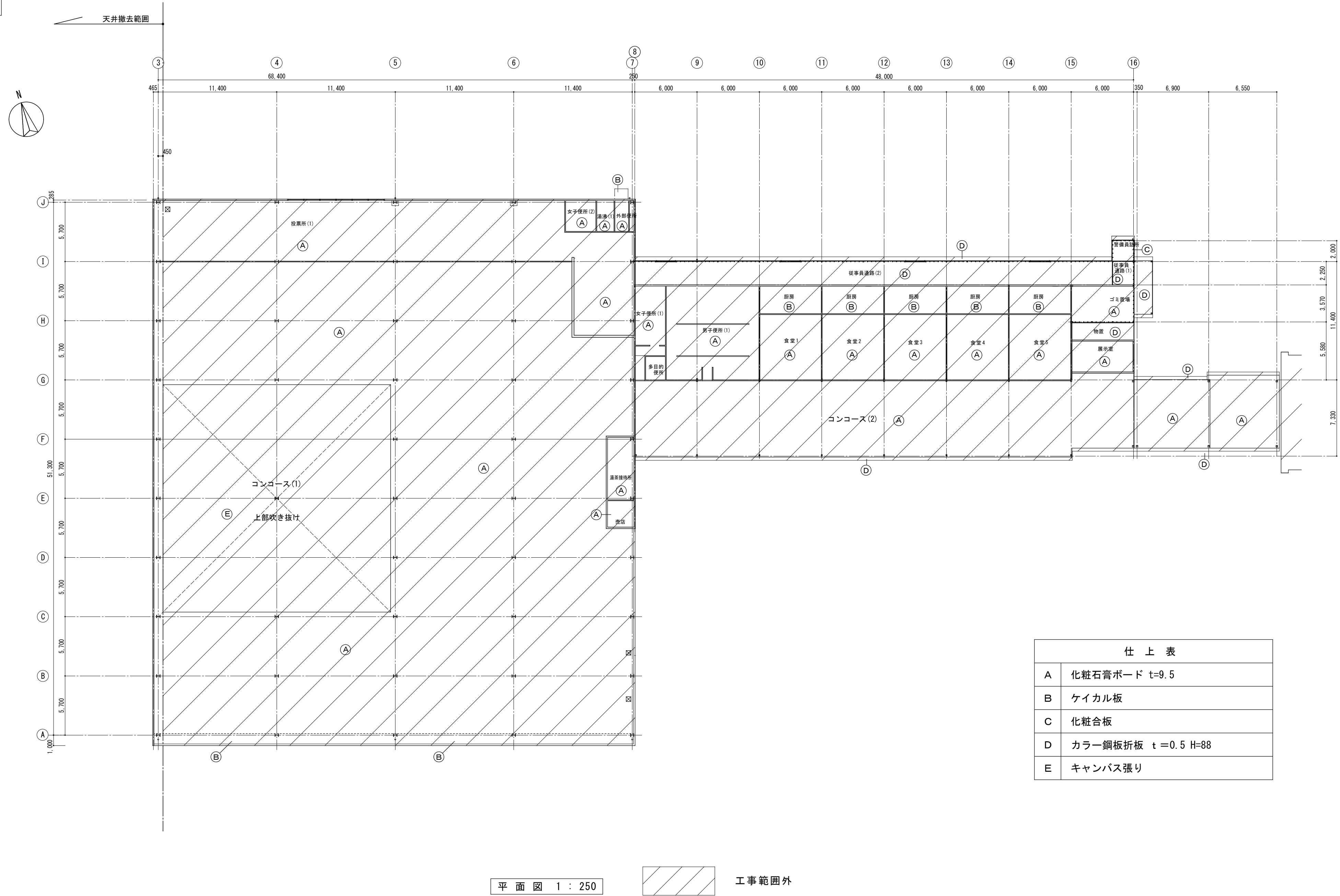
改修後

仕 上 表		新 設 部 仕 上 表	
①	ルーフデッキ t=0.5	㊦	基礎立上      コンクリート打ち放し
②	カラー鋼板瓦葺き    t=0.5	㊧	水切り              カラー鋼板    t=0.5
③	カラー鋼板    t=0.5	㊨	外壁              角波鋼板 t=0.5 横張り（ケミカル面戸共）
④	キャンパス（ポリエステル）張り	㊩	笠木              アルミ    W=150（小口カバー共）
⑤	サイディング t=18.0	㊪	バラベツ              スレートボード    t=8.0（目地処理）下地
⑥	アルミ建具	立上	ウレタン系塗膜防水（X-2）平場500mm程度含
⑦	コンクリート打ち放し		





参考図



仕 上 表	
A	化粧石膏ボード t=9.5
B	ケイカル板
C	化粧合板
D	カラー鋼板折板 t=0.5 H=88
E	キャンバス張り

Architectural elevation drawing of a building facade, showing a renovation project. The drawing includes dimensions, material specifications, and labels for various components.

**Dimensions:**

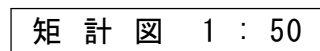
- Overall width: 51,300
- Section markers: A, B, C, D, E
- Horizontal dimensions: 1,000, 5,700, 5,700, 5,700
- Vertical dimensions: 600, 250, 4,000, 3,000, 600

**Labels and Materials:**

- 笠木: カラー鋼板 t=0.6
- 塗膜防水
- RSL (水上)
- RSL (水下)
- 外壁: サイディング t=18
- クイカル板
- 化粧石膏ボード
- 無目: カラー鋼板 t=0.6
- 化粧石膏ボード
- ポリカーボネート板
- カウンター:メラミン化粧板
- 根巻コンクリート撤去
- コンクリートブロック化粧積
- 床: カラーアスファルト舗装 既存のまま
- 床: カラーアスファルト舗装 既存のまま
- 周囲カッター入れ
- 周囲カッター入れ
- 周囲カッター入れ
- 周囲カッター入れ
- 周囲カッター入れ

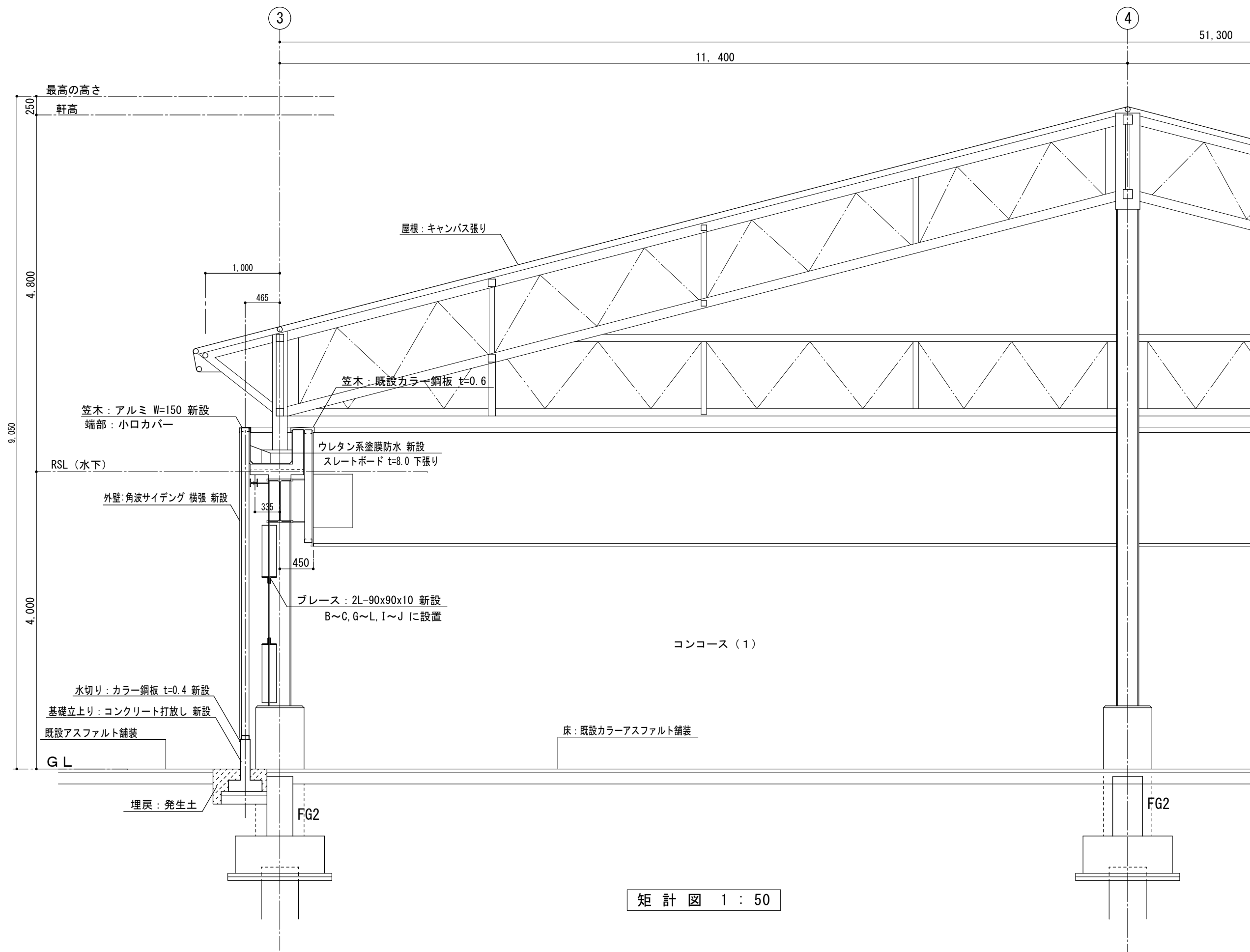
**Other Notes:**

- シート防水
- コンクリート金ゴテ
- 改修工事範囲
- 既存のまま

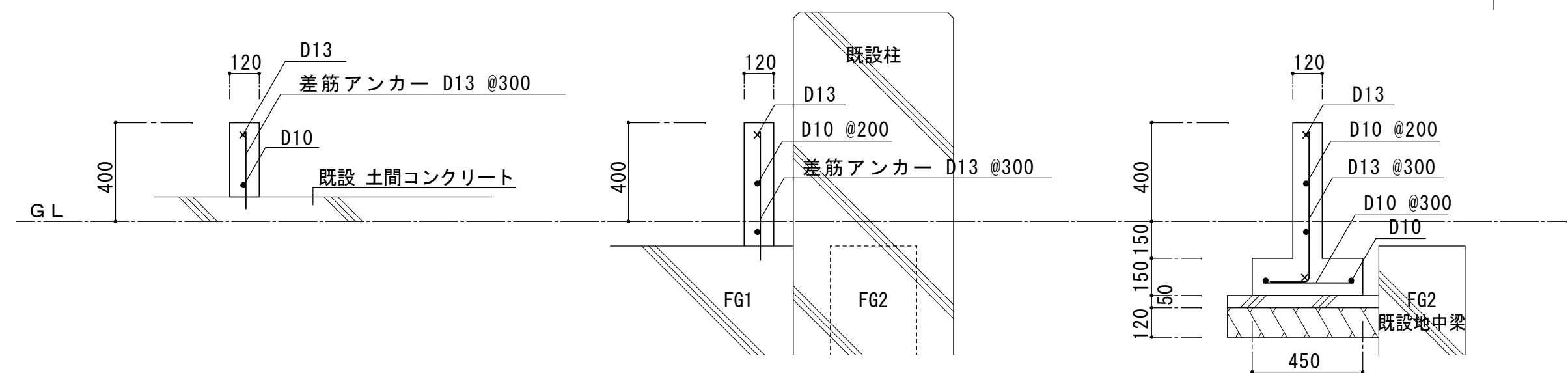


工事範圍外

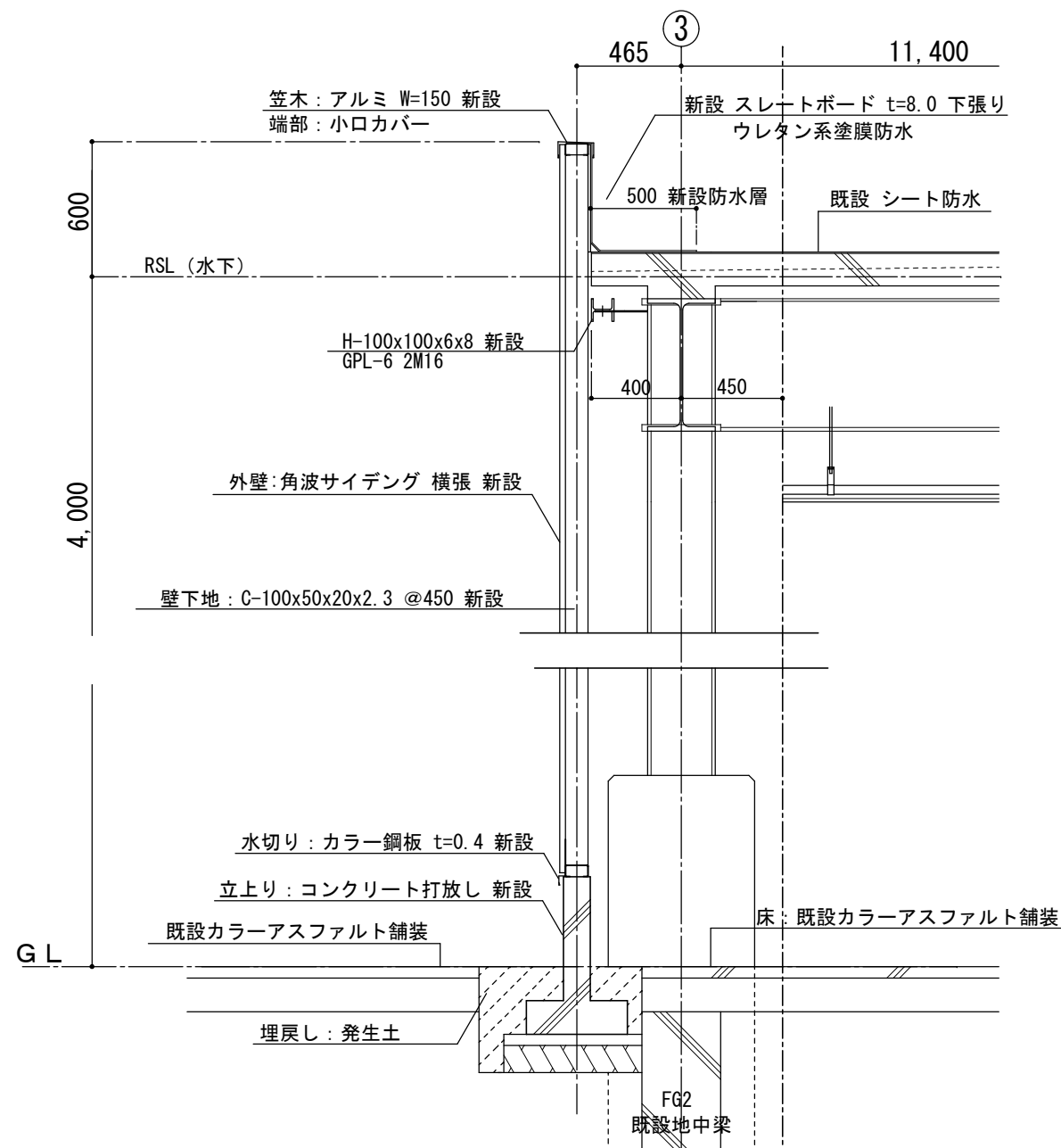
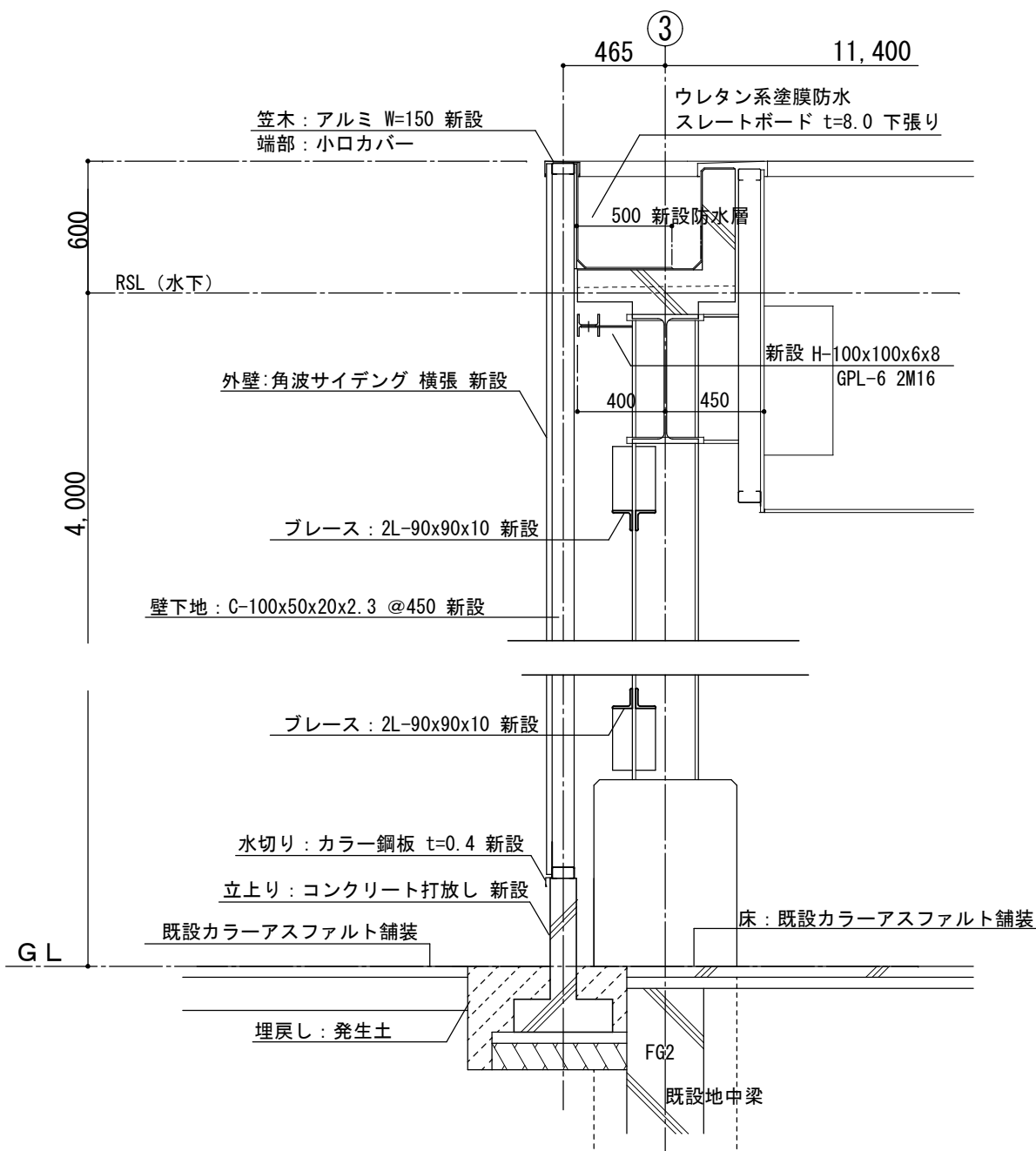
参考図



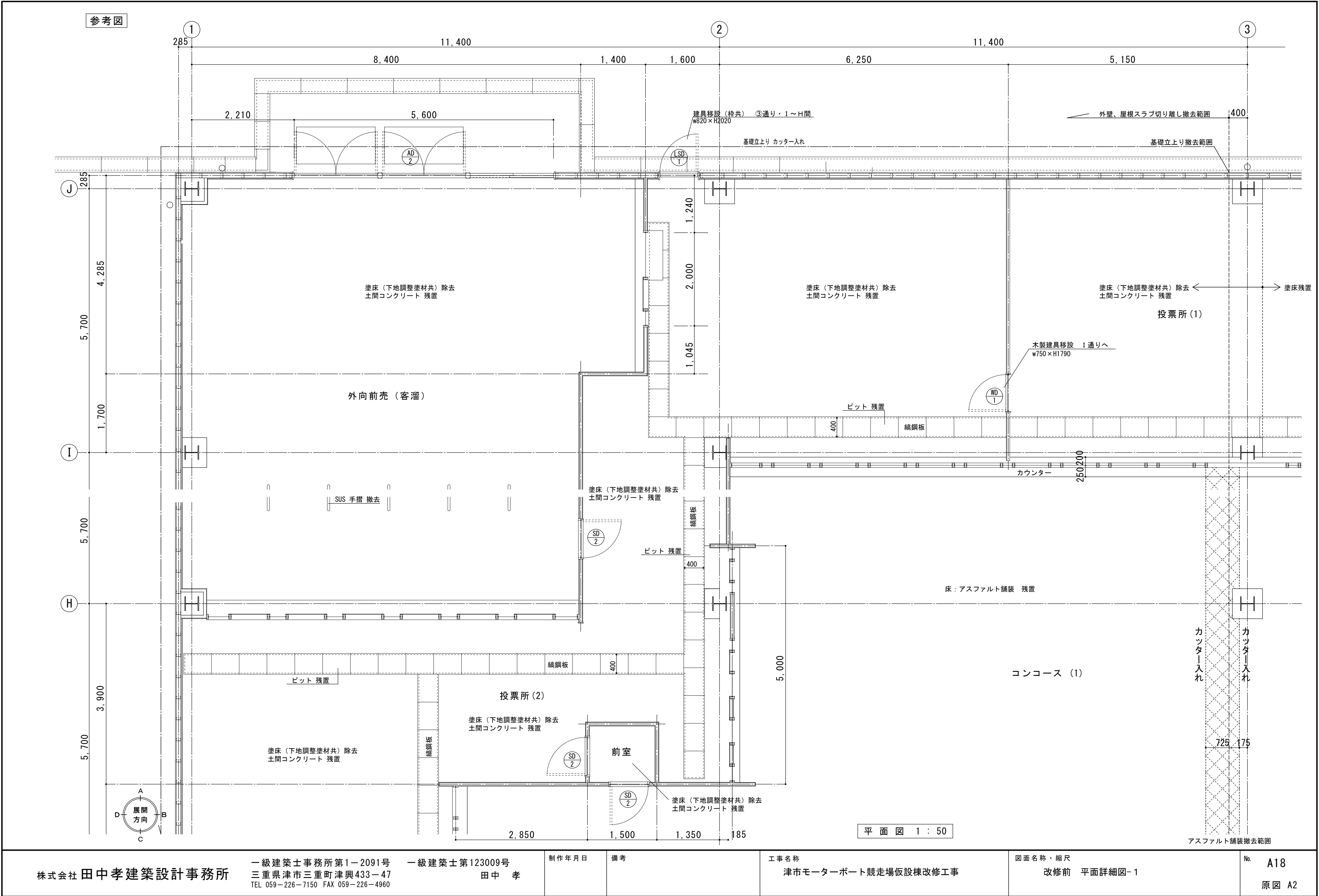
矩 計 図 1 : 50



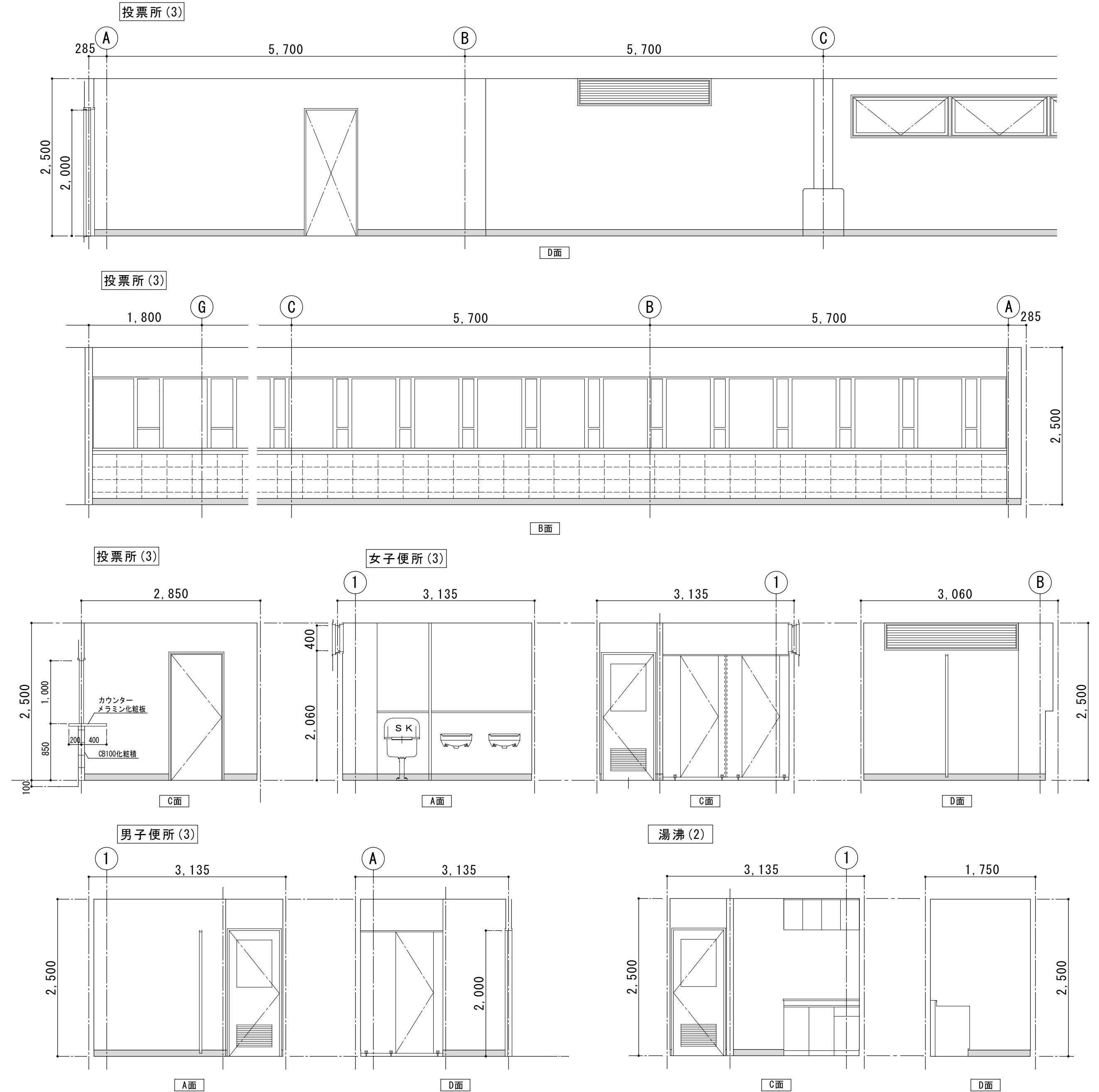
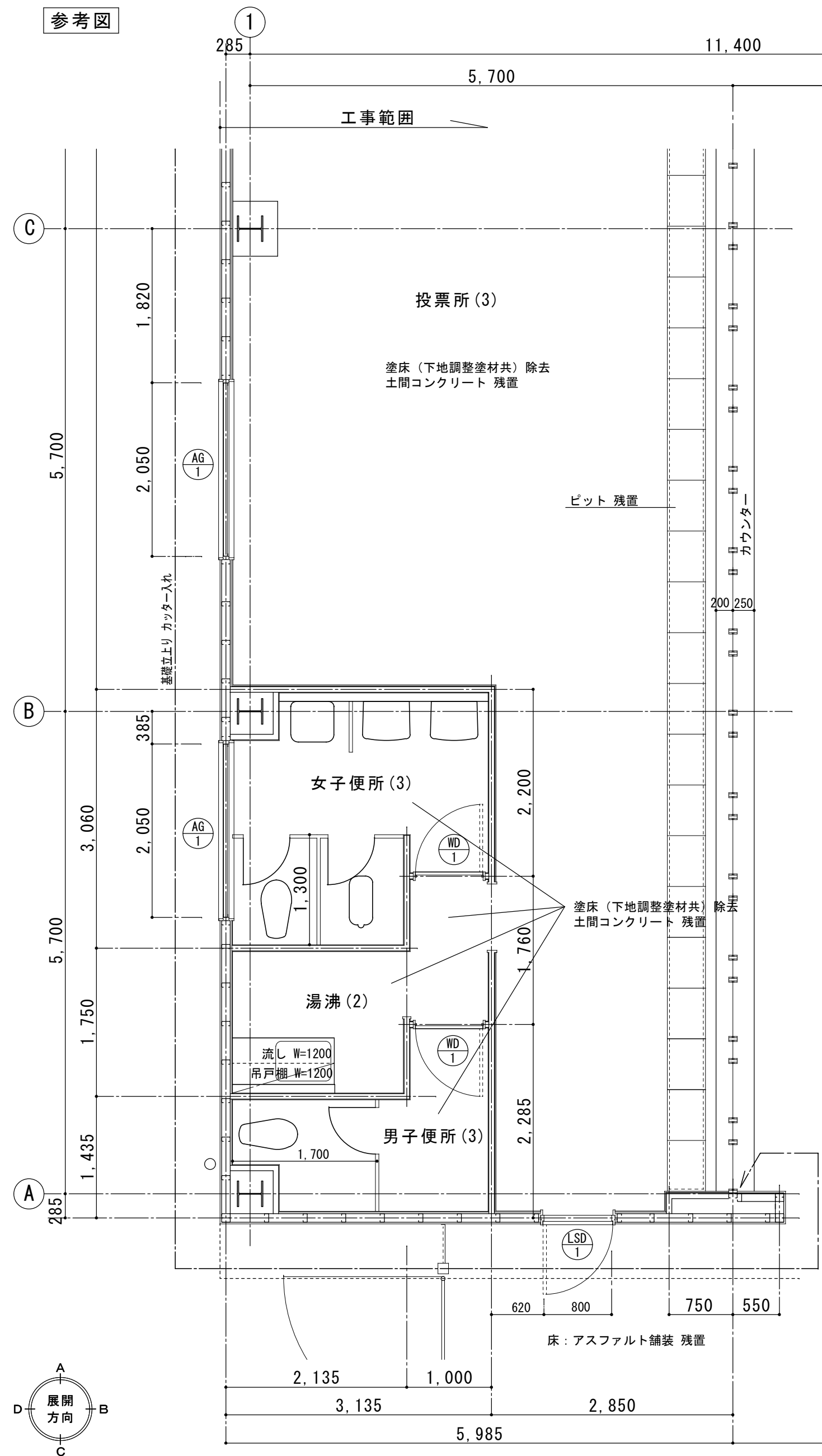
新設 基礎詳細図 1 : 20



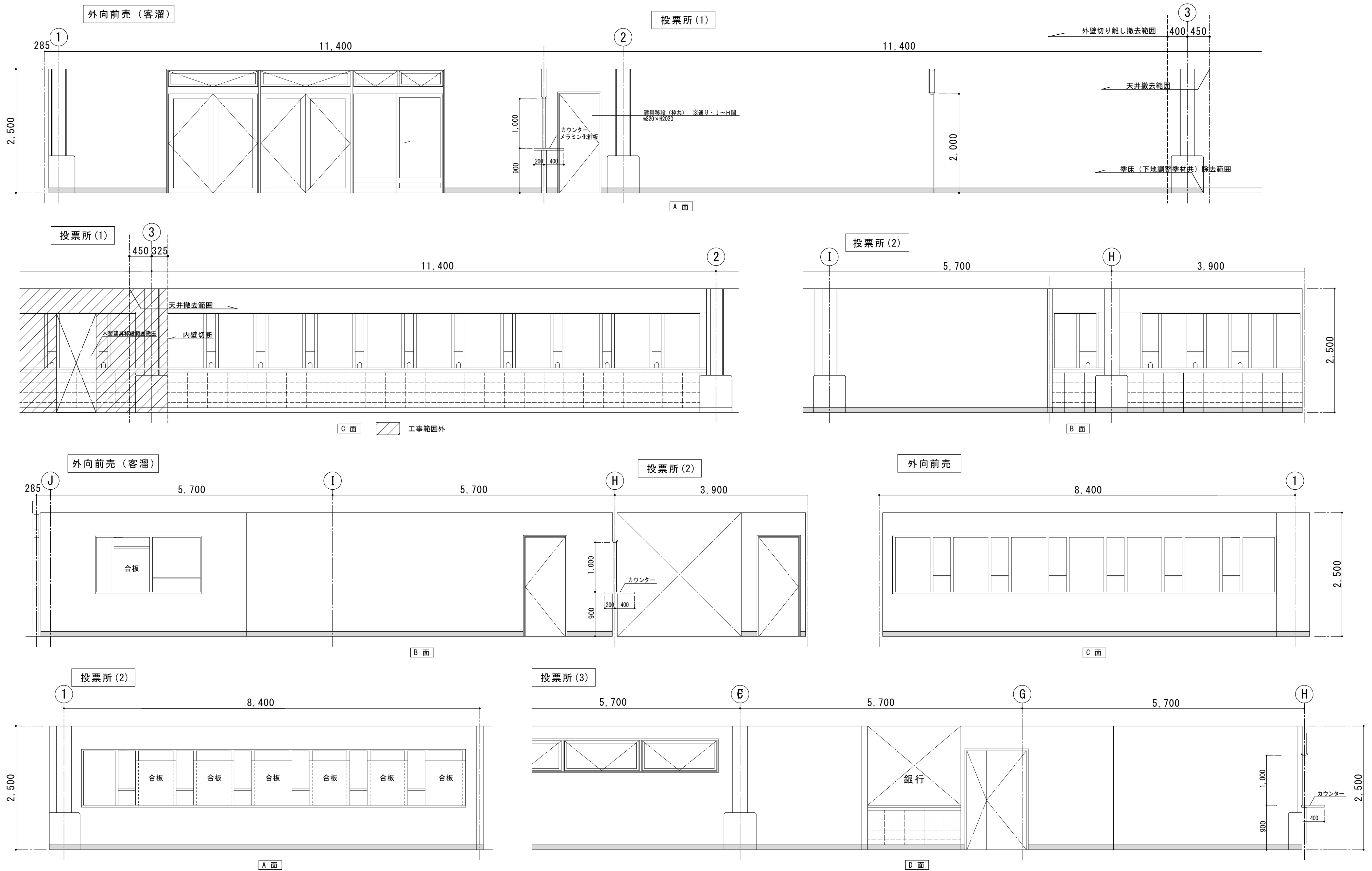
詳 細 図 1 : 30







ビニル床巾木（接着剤及び下地調整塗材にアスベスト含有）撤去範囲



展開図 1 : 50

ビニル床巾木 (接着剤及び下地調整塗材にアスベスト含有) 撤去範囲

株式会社 田中孝建築設計事務所

一級建築士事務所第1-2091号  
三重県津市三重町津興433-47  
TEL 059-226-7150 FAX 059-226-4960

一級建築士第123009号  
田中 孝

制作年月日

備考

工事名称

津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

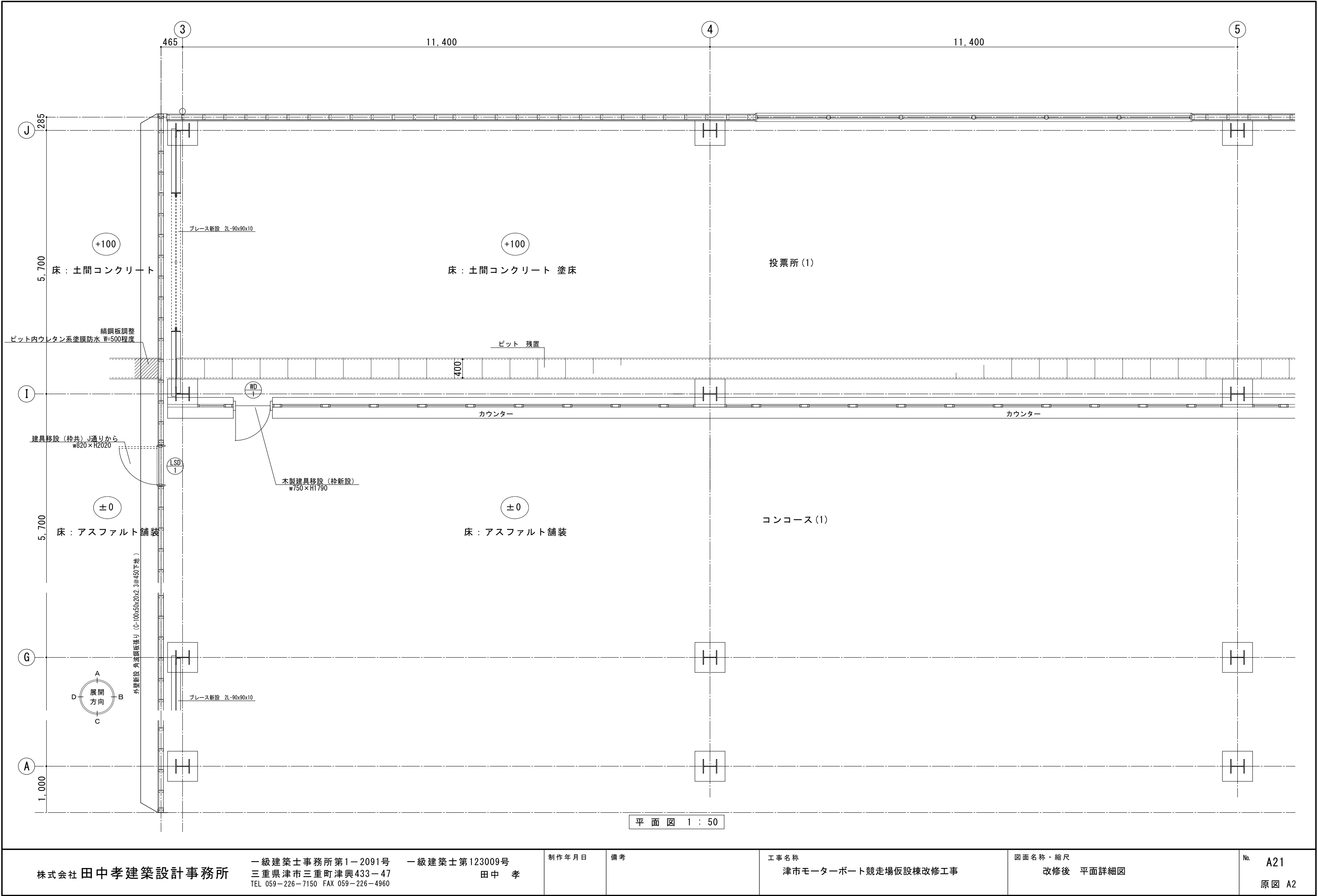
図面名称・縮尺

改修前 展開図-2

No.

A20

原図 A2



平面図 1 : 50

株式会社 田中孝建築設計事務所

一級建築士事務所第1-2091号  
三重県津市三重町津興433-47  
TEL 059-226-7150 FAX 059-226-4960

一級建築士第123009号  
田中 孝

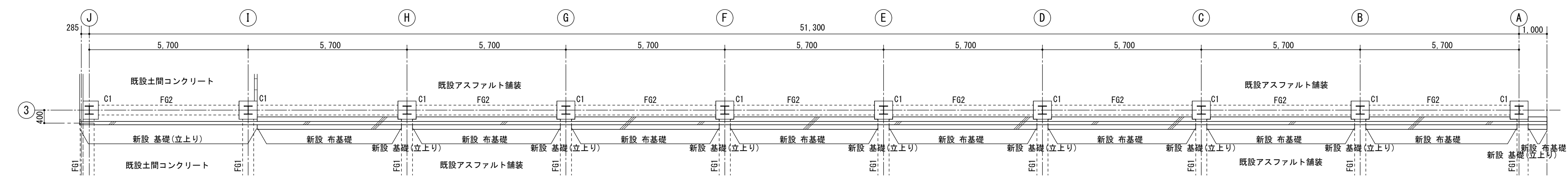
制作年月日

備考

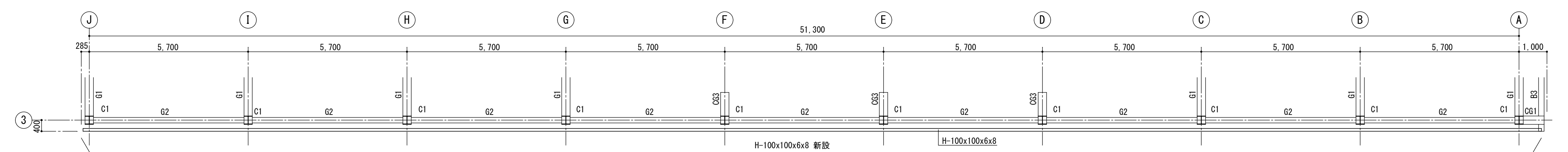
工事名称  
津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

図面名称・縮尺  
改修後 平面詳細図

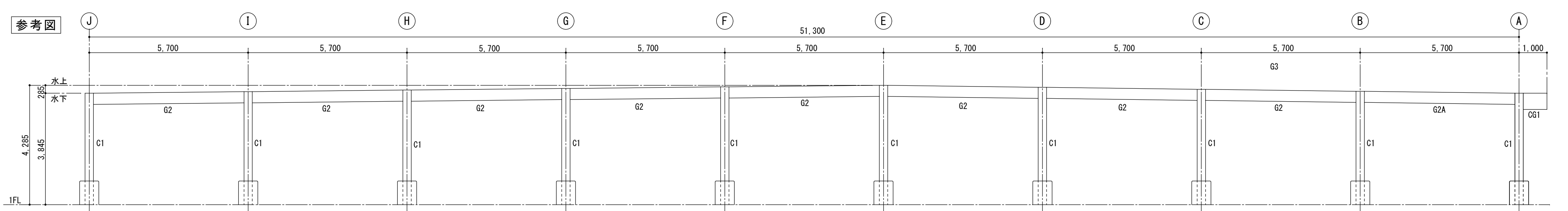
No. A21  
原図 A2



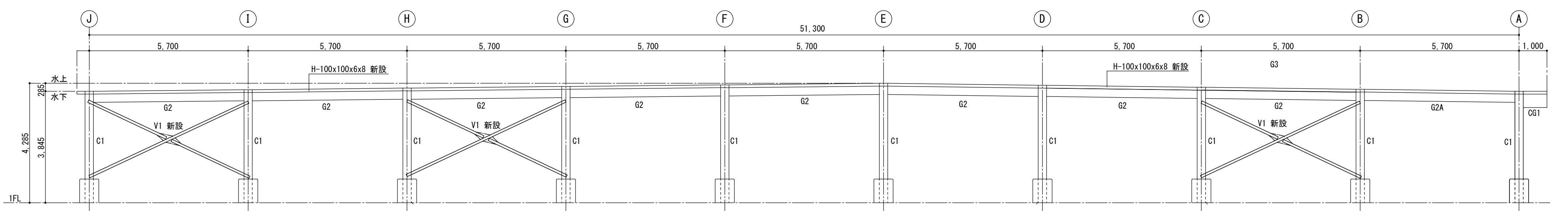
改修 3通り 基礎伏図 1 : 100



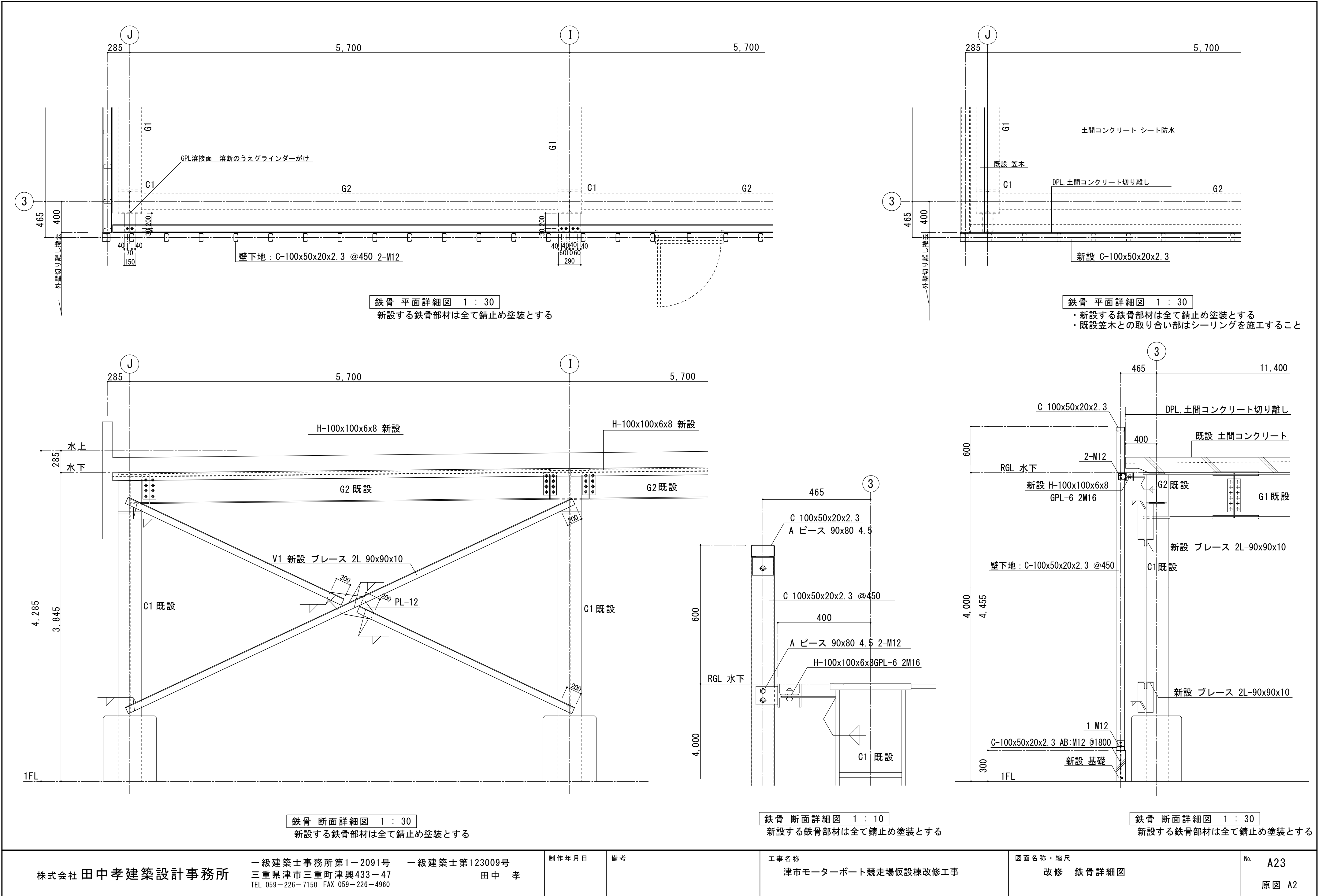
改修 3通り 梁伏図 1 : 100



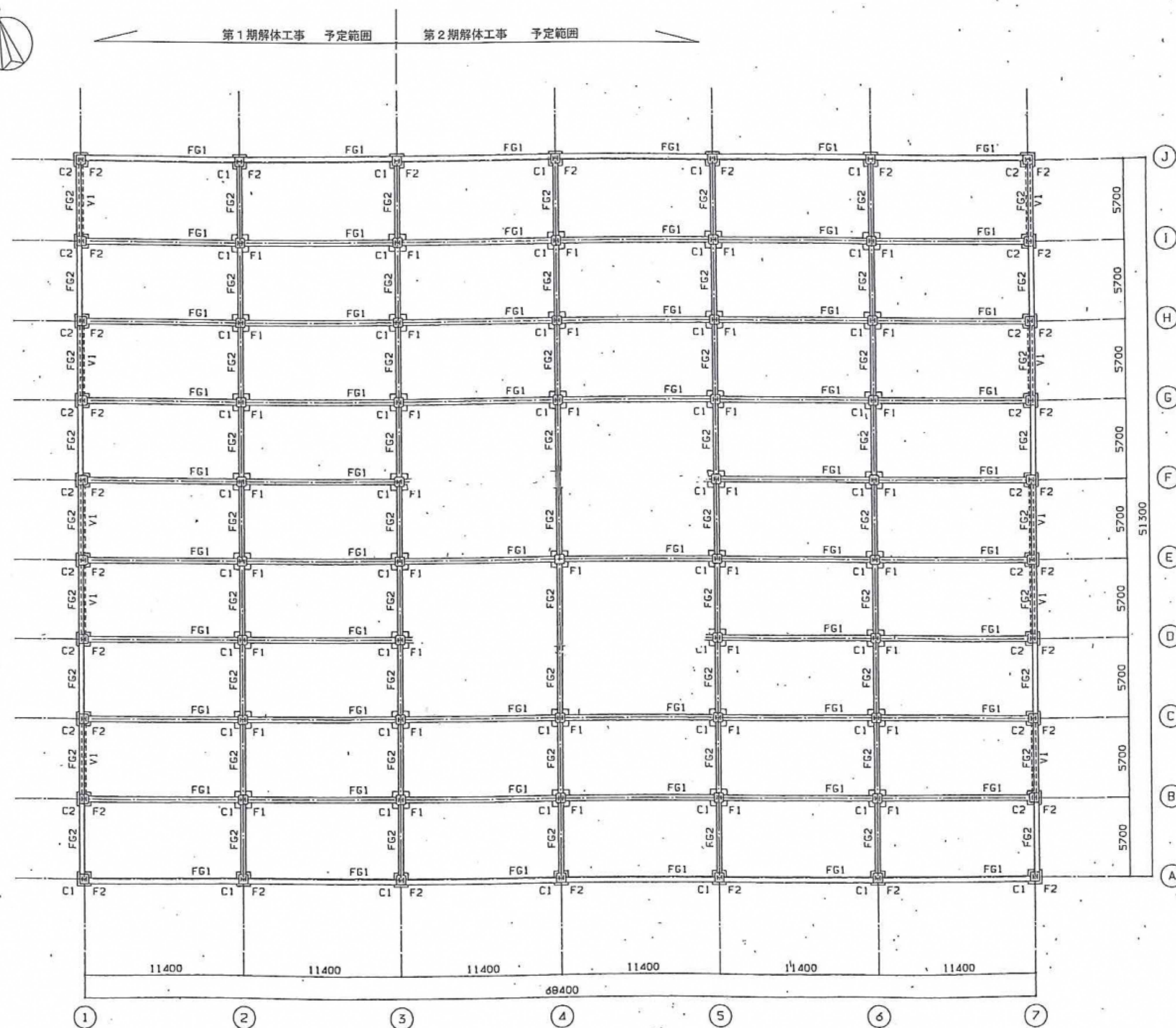
改修前 3通り 軸組図 1 : 100



改修 3通り 軸組図 1 : 100

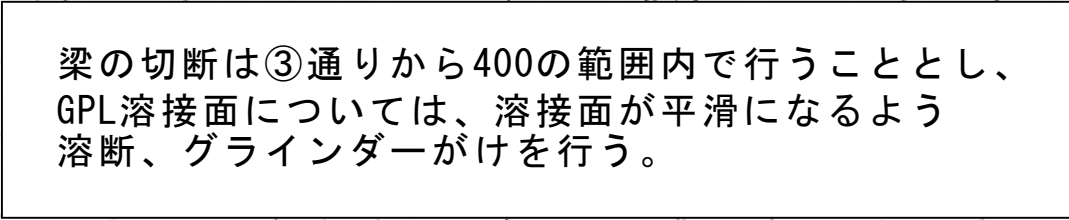






基礎梁断面表		1/50	注記) 記入なき限り下記による。
符 号	FG 1.		FG 2
位 置	端部	中央	端部 中央
断 面			
上 端 筋	3-D22	3-D22	3-D22 2-D22
下 端 筋	3-D22	4-D22	3-D22 2-D22
あ ば 筋	D13 0200		D10 0200
腹 筋	2-D13		2-D13
備 考			
柱脚根巻部断面表		1/50	注記) 記入なき限り下記による。
符 号	C 1・C 2		
断 面			
主 筋	16-D22		
帯 筋	D13 0100		
補 助 筋			
備 考			
基礎断面表		1/50	注記) 記入なき限り下記による。
符 号	F 1 (ST5060, 1本) 12.0m		
形 状			
符 号	F 2 (ST4045, 1本) 12.0m		
形 状			



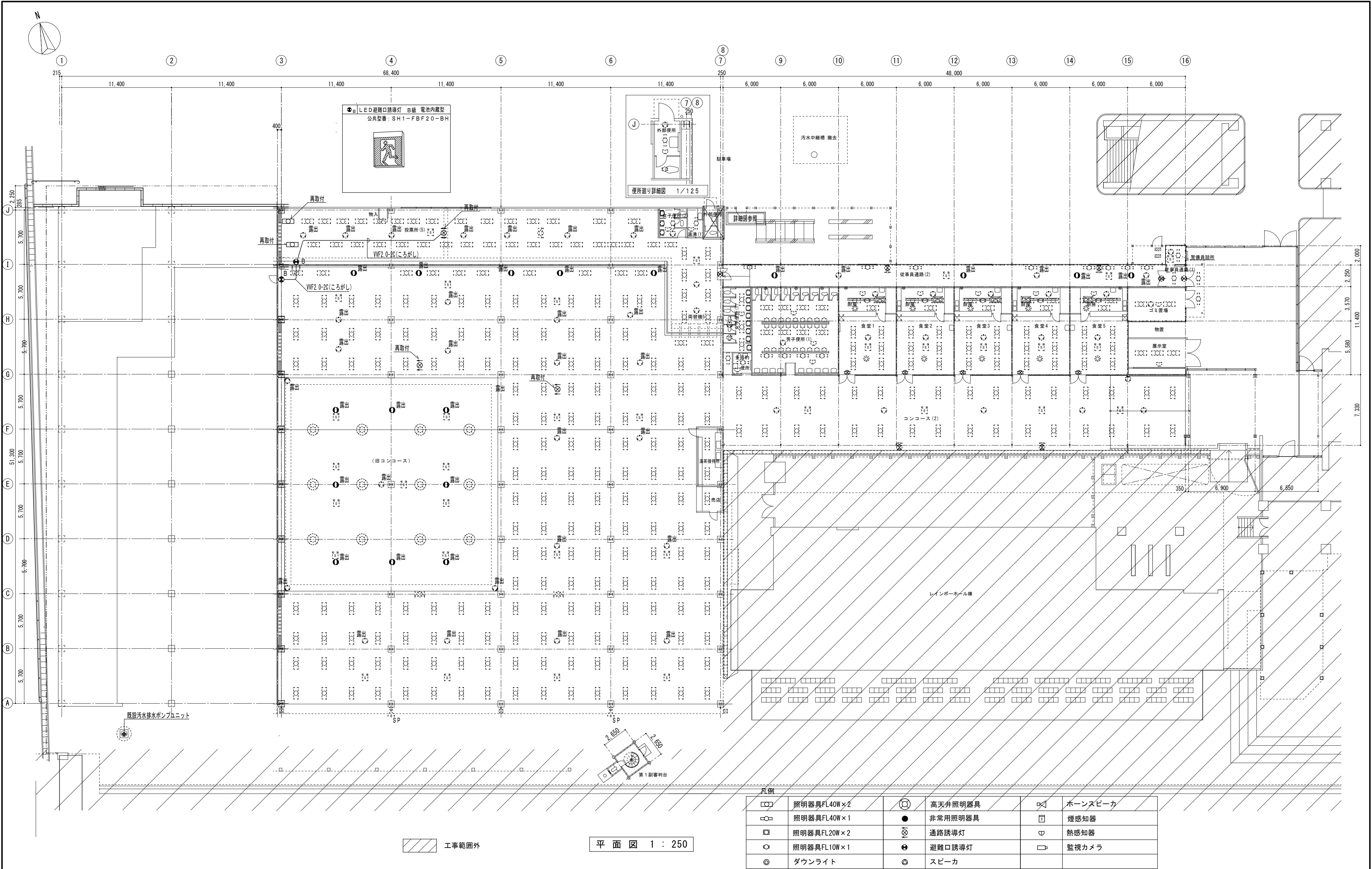


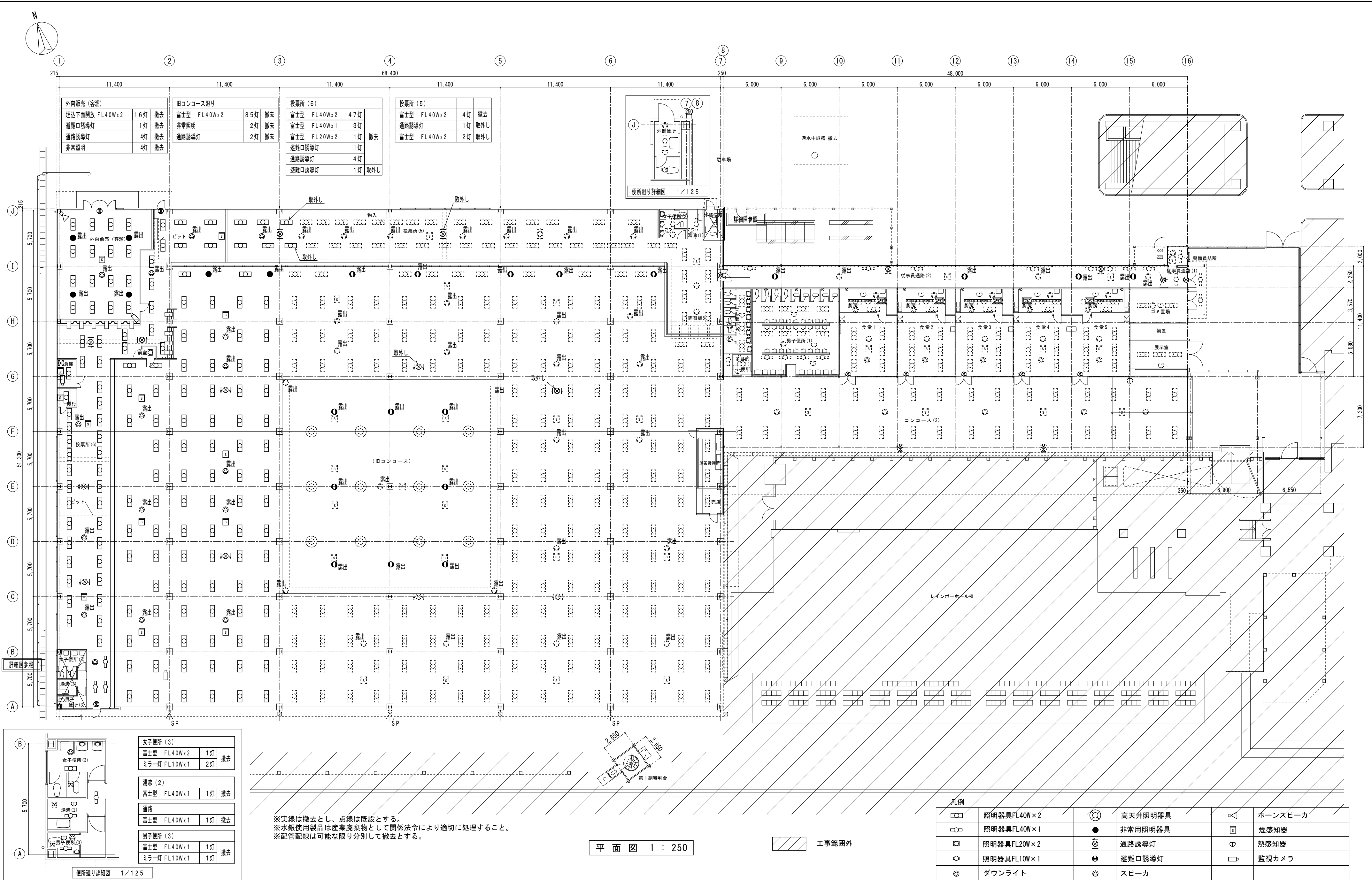
床スラブ断面表	注記) 記入なき限り下記による。
---------	------------------

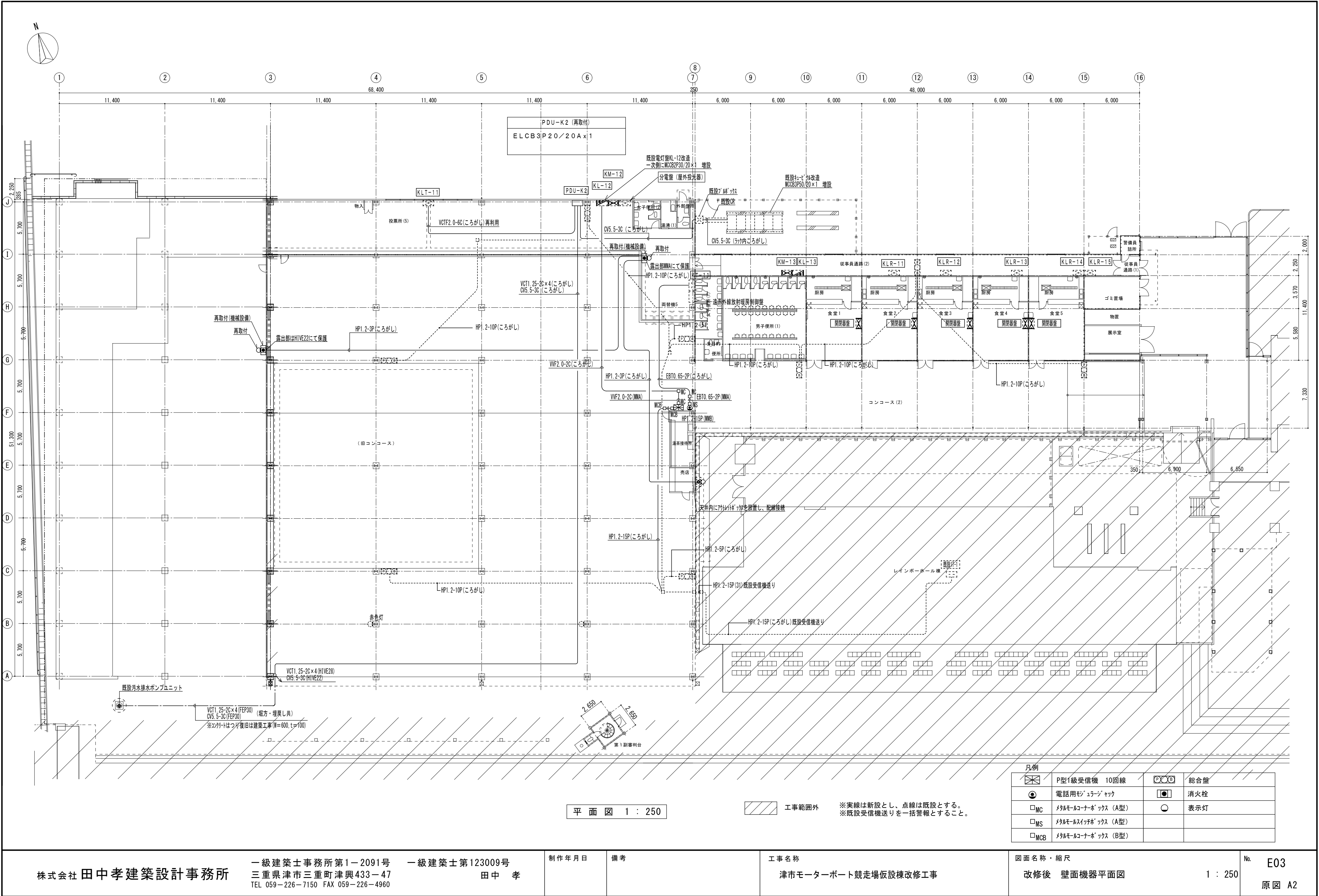








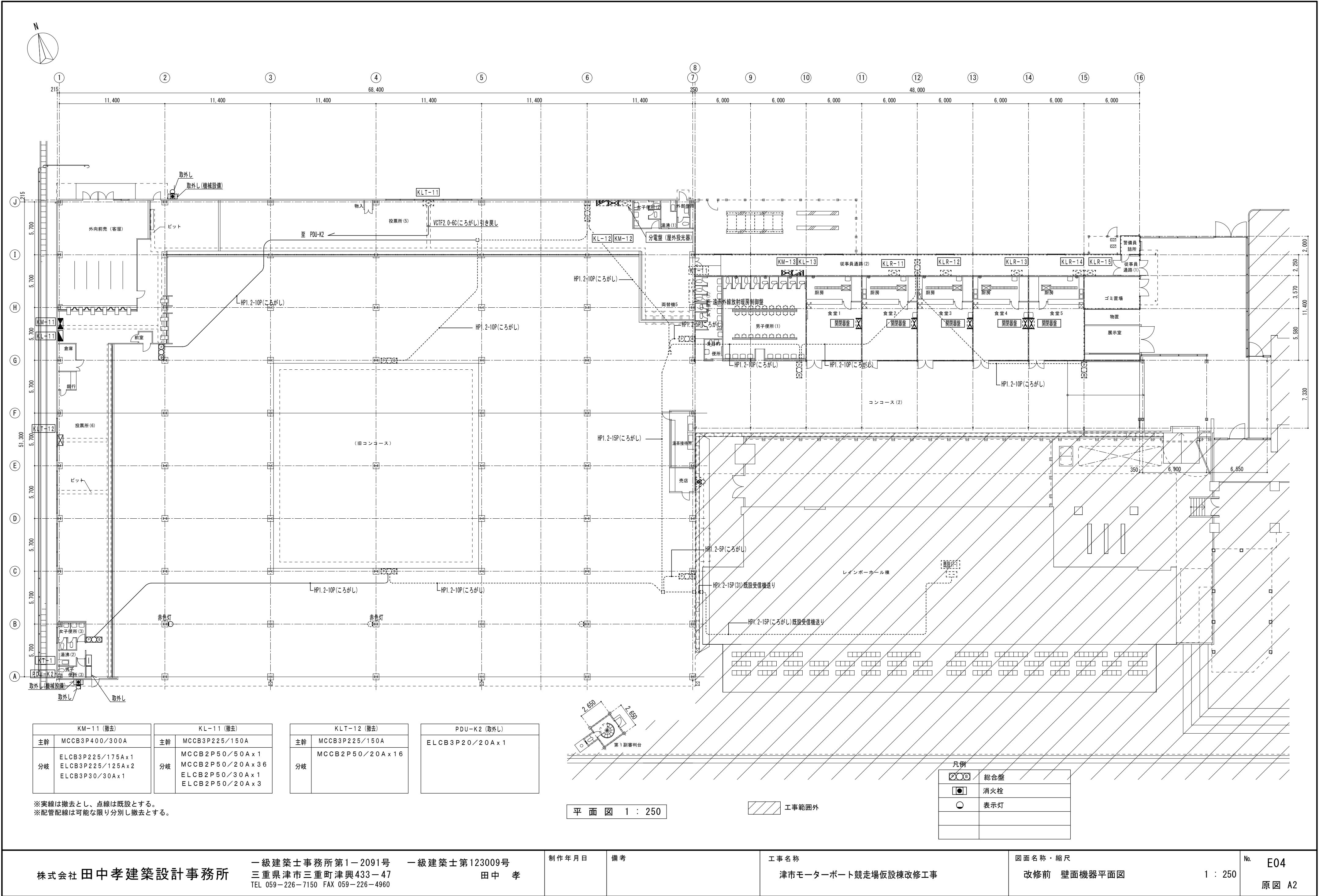




平面図 1 : 250

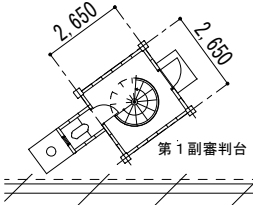
工事範囲外 ※実線は新設とし、点線は既設とする。  
※既設受信機送りを一括警報とすること。

凡例			
	P型1級受信機 10回線		総合盤
	電話用マルチジャック		消火栓
	メタルコーナーボックス (A型)		表示灯
	メタルスイッチボックス (A型)		
	メタルコーナーボックス (B型)		



KM-11 (撤去)		KL-11 (撤去)		KLT-12 (撤去)		PDU-K2 (取外し)	
主幹	MCCB3P400/300A	主幹	MCCB3P225/150A	主幹	MCCB3P225/150A	主幹	MCCB3P20/20A x 1
分岐	ELCB3P225/175A x 1 ELCB3P225/125A x 2 ELCB3P30/30A x 1	分岐	MCCB2P50/50A x 1 MCCB2P50/20A x 36 ELCB2P50/30A x 1 ELCB2P50/20A x 3	分岐	MCCB2P50/20A x 16		

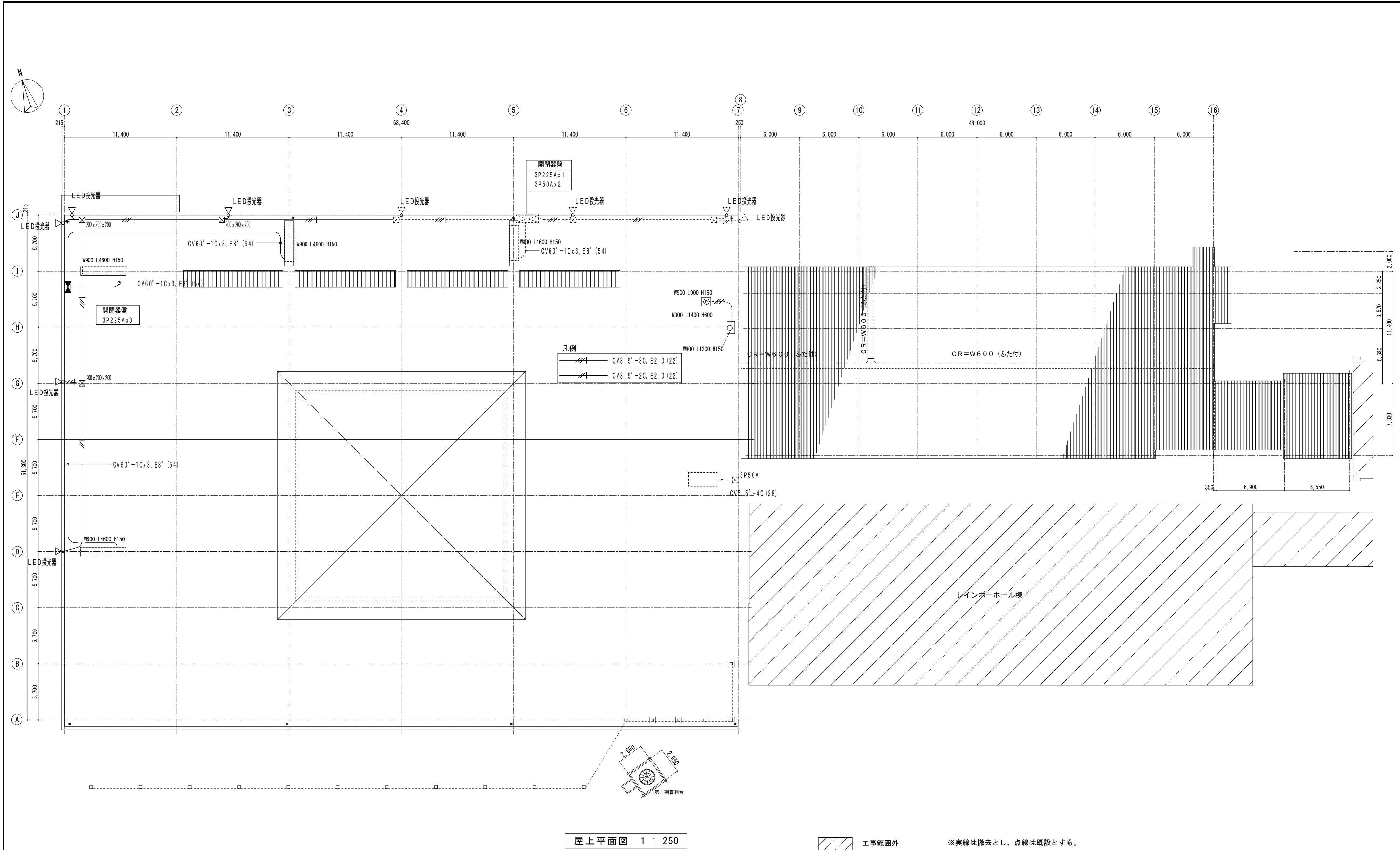
※実線は撤去とし、点線は既設とする。  
※配管配線は可能な限り分別し撤去とする。



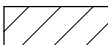
平面図 1 : 250

工事範囲外

凡例	
	総合盤
	消火栓
	表示灯



屋上平面図 1 : 250

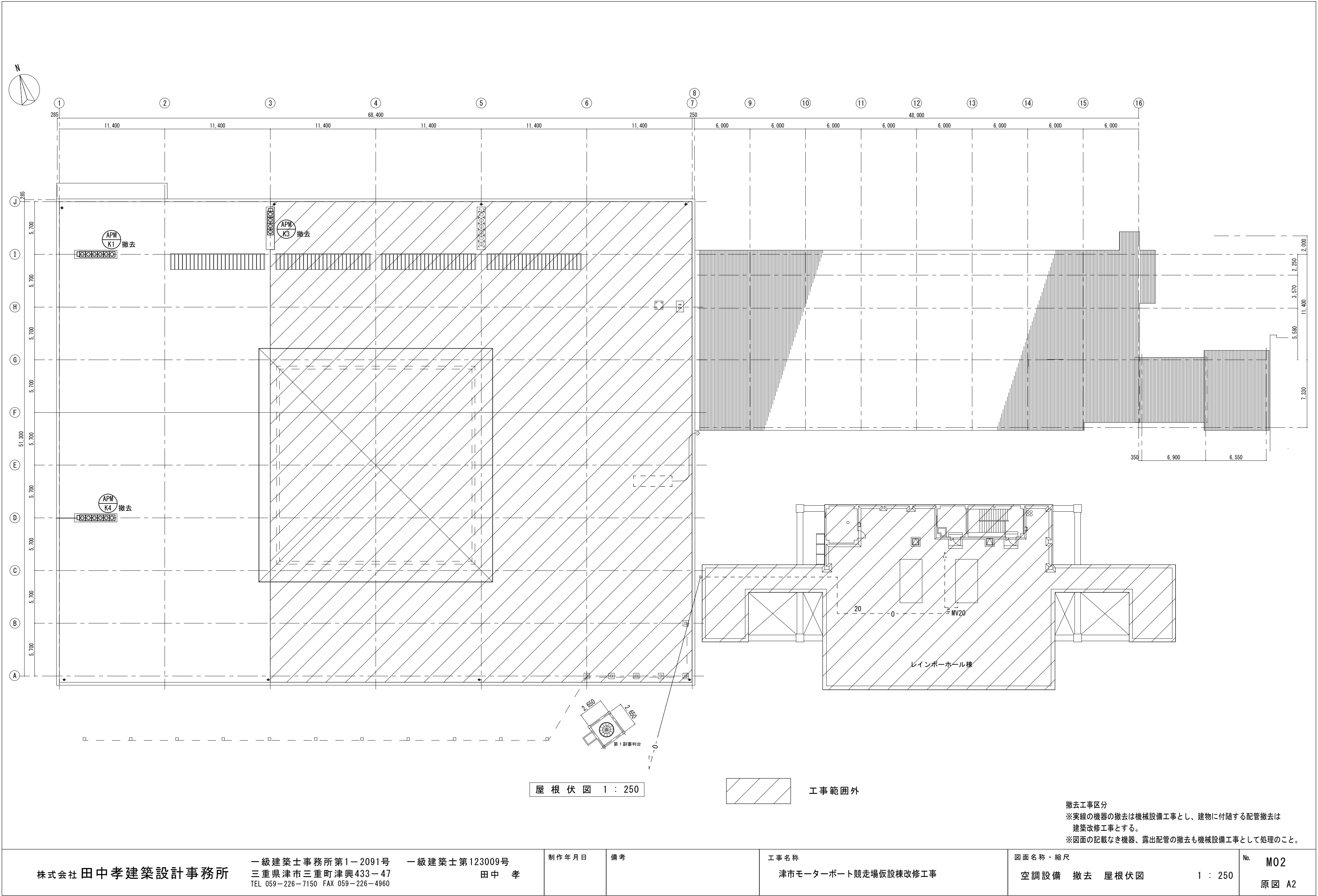


工事範囲外

※実線は撤去とし、点線は既設とする。







株式会社 田中孝建築設計事務所

一級建築士事務所第1-2091号  
三重県津市三重町津興433-47  
TEL 059-226-7150 FAX 059-226-4960

一級建築士第123009号  
田中 孝

制作年月日

備考

工事名称

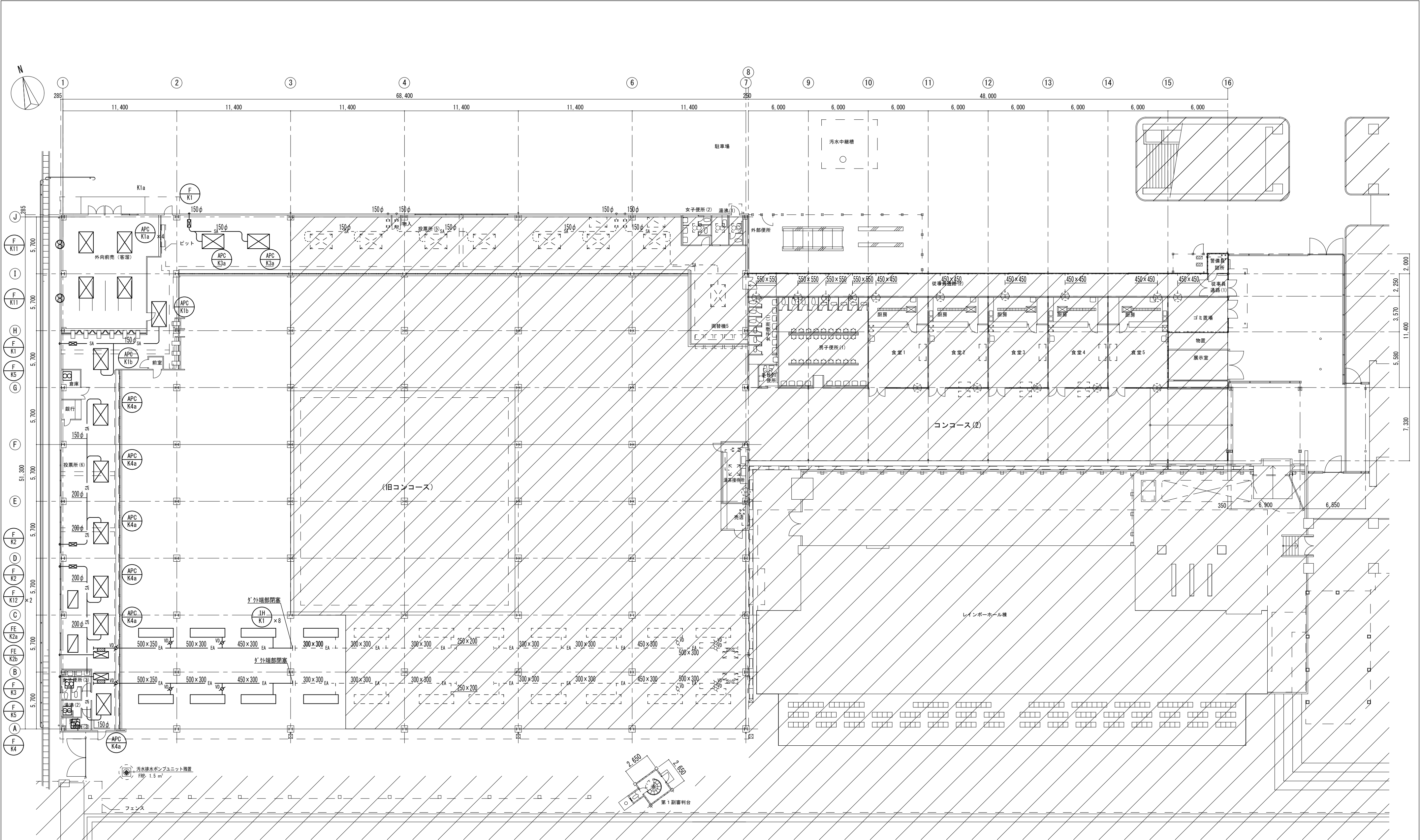
津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

図面名称・縮尺

空調設備 撤去 屋根伏図

1 : 250

No. M02  
原図 A2



平面図 1 : 250



工事範囲外

株式会社 田中孝建築設計事務所

一級建築士事務所第1-2091号  
三重県津市三重町津興433-47  
TEL 059-226-7150 FAX 059-226-4960

一級建築士第123009号  
田中 孝

制作年月日

備考

工事名称

津市モーターボート競走場仮設棟改修工事

図面名称・縮尺

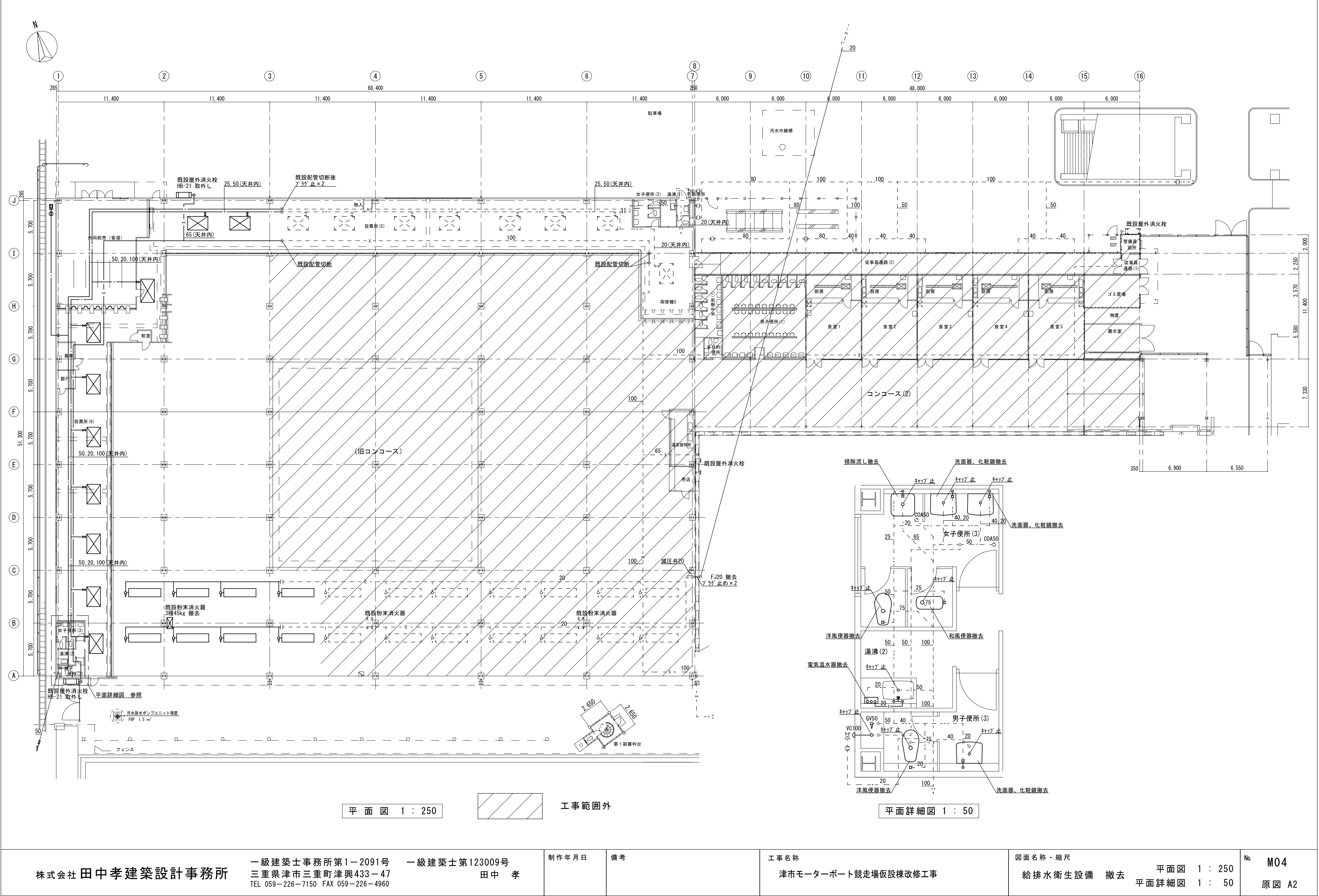
空調換気設備 撤去 平面図

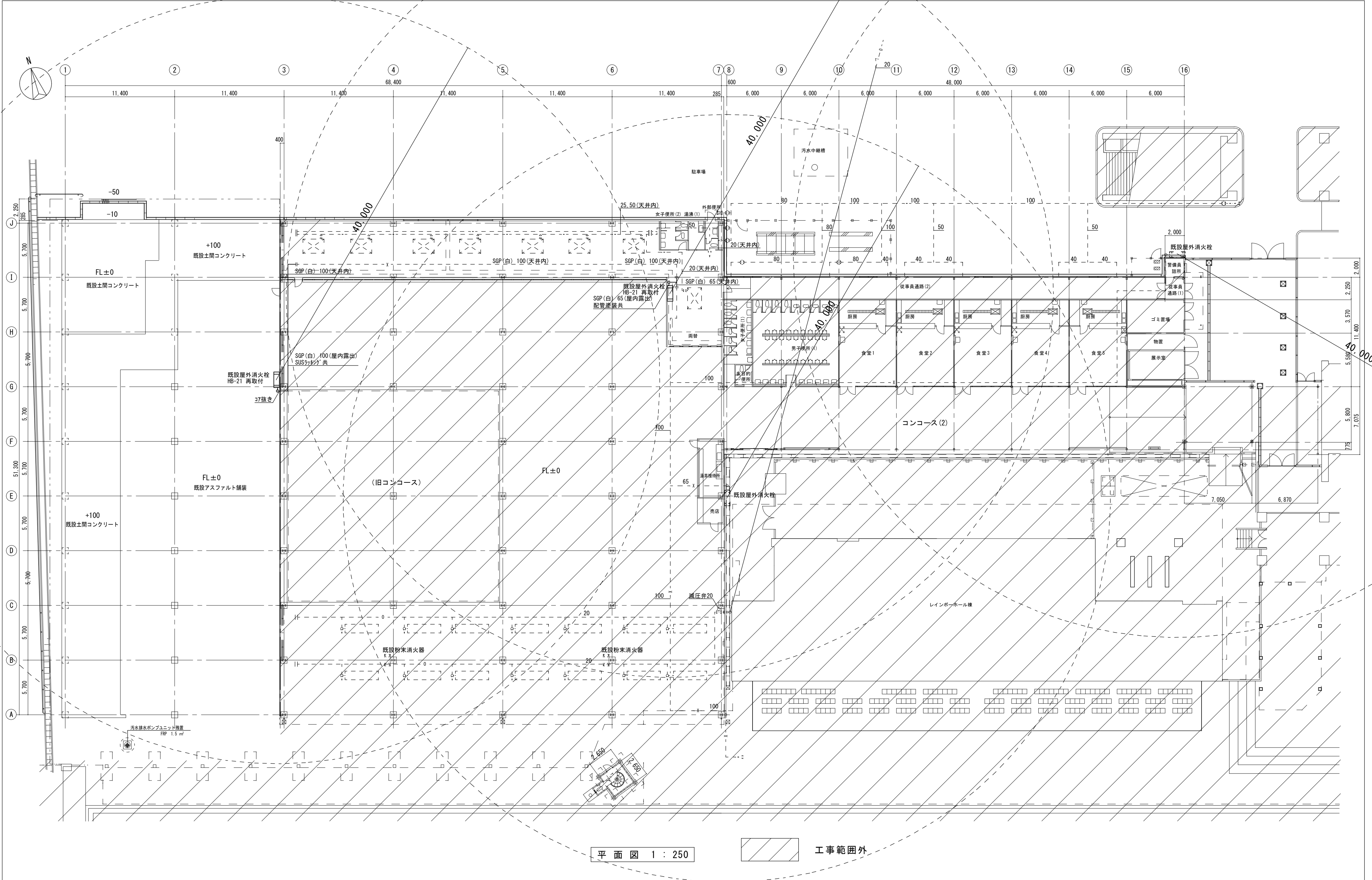
1 : 250

No.

M03

原図 A2





株式会社 田中孝建築設計事務所	一級建築士事務所第1-2091号 三重県津市三重町津興433-47 TEL 059-226-7150 FAX 059-226-4960 一級建築士第123009号 田中 孝	制作年月日	備考	工事名称 津市モーターボート競走場仮設棟改修工事	図面名称・縮尺 給排水衛生設備 改修後 平面図 1 : 250	No. M05 原図 A2
-----------------	--	-------	----	-----------------------------	------------------------------------	------------------